

令和 7 年度
世田谷区福祉人材育成・研修センター
事業報告書

令和 8 年3月

世田谷区福祉人材育成・研修センター

本報告書は、世田谷区福祉人材育成・研修センター（以下「研修センター」という）の令和7年度の実施について報告する。

目次

I	世田谷区福祉人材育成・研修センターの概要	
1	世田谷区福祉人材育成・研修センターの取組み	・・・ 3
2	世田谷区の概要	・・・ 4
II	世田谷区の福祉人材を取り巻く状況と課題	
1	福祉・医療分野での有効求人倍率の状況	・・・ 7
2	世田谷区の福祉人材施策	・・・ 8
3	福祉分野の計画における福祉人材対策	・・・ 9
4	福祉人材確保・育成に関する調査概要と調査結果	・・・ 11
5	世田谷区居宅介護支援事業所等調査概要と結果報告	・・・ 12
6	福祉の仕事の魅力向上・発信	・・・ 13
7	外国人職員交流会	・・・ 21
8	令和7年度の研修センターの主な取組み	・・・ 24
	令和7年度事業体系図	・・・ 43
	<資料>	
1	都内地域型研修機関	・・・ 45
2	令和7年度世田谷区福祉人材育成・研修センター事業実施状況	・・・ 47
	<参考> 世田谷区福祉人材育成・研修センターと関係機関等関連図	・・・ 51

I 世田谷区福祉人材育成・研修センターの概要

1 世田谷区福祉人材育成・研修センターの取組み

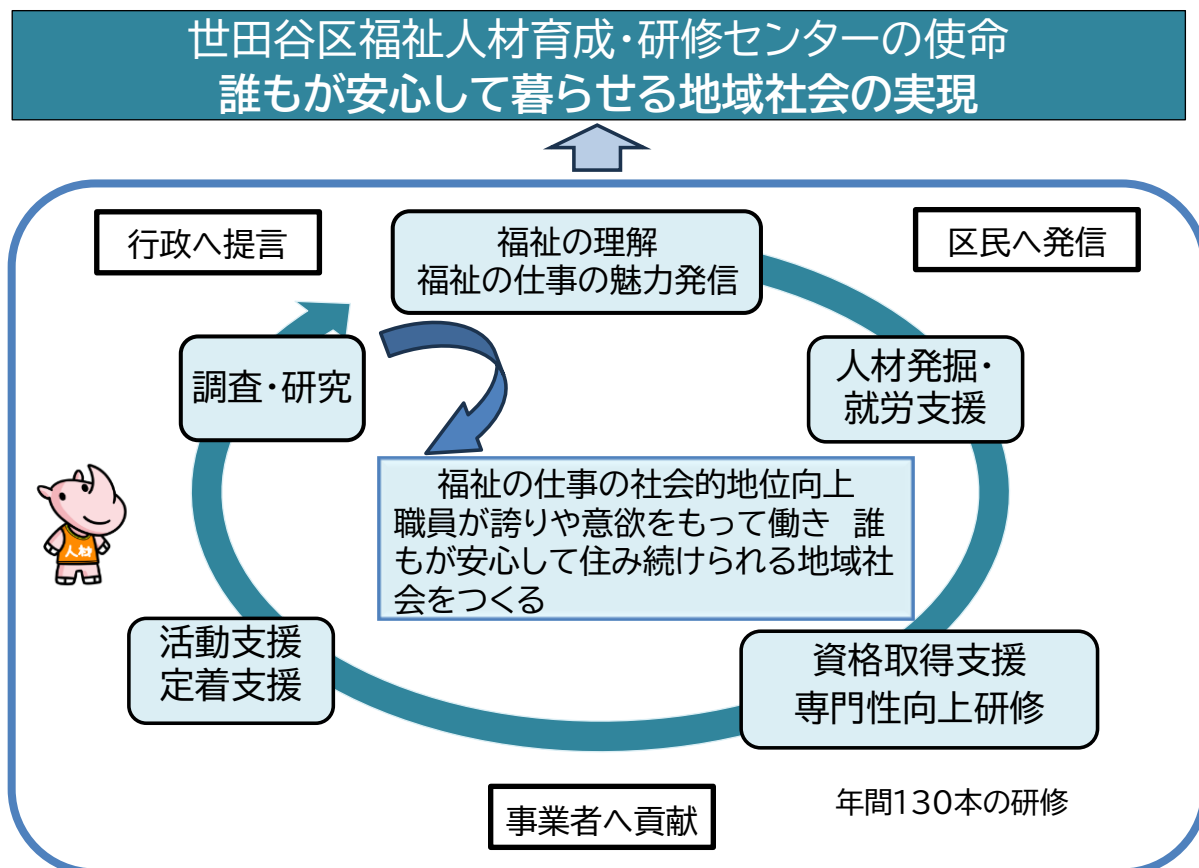
～誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられる地域づくりを目指して～

世田谷区福祉人材育成・研修センターは、平成19年4月、世田谷区が福祉人材の確保・育成・定着支援を総合的に推進するため設置し、社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団が運営している。研修センターは、福祉の理解促進、高齢・障害・子どもの各分野と医療福祉連携等の各種研修を年間130本超行うほか、福祉のしごとの魅力発信、人材発掘・就労支援、福祉従事者の相談など定着支援、調査・研究事業など、世田谷区の福祉人材施策を総合的に推進している。

少子・高齢社会の進展に伴う生産年齢人口の減少により、福祉・介護人材不足は一段と顕著となっており、担い手の確保は喫緊の課題です。一方、地域では、単身世帯の増加や8050問題、ヤングケアラーなど福祉ニーズは複雑・多様化し、地域包括ケアシステムの深化や地域共生社会の構築などが求められている。

研修センターでは、研修内容に応じて、座学は動画視聴を中心に、グループワークや実技演習は集合研修とするなど、受講しやすい多様な形態で研修を行っており、研修ごとに受講者の声をいただき、効率的、効果的な研修の実施に努めている。

誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられる地域づくりの実現に向け、研修センターでは「区民に発信」「事業者へ貢献」「行政へ提言」の三本柱で、5つの取組みを推進していく。



2 世田谷区の概要

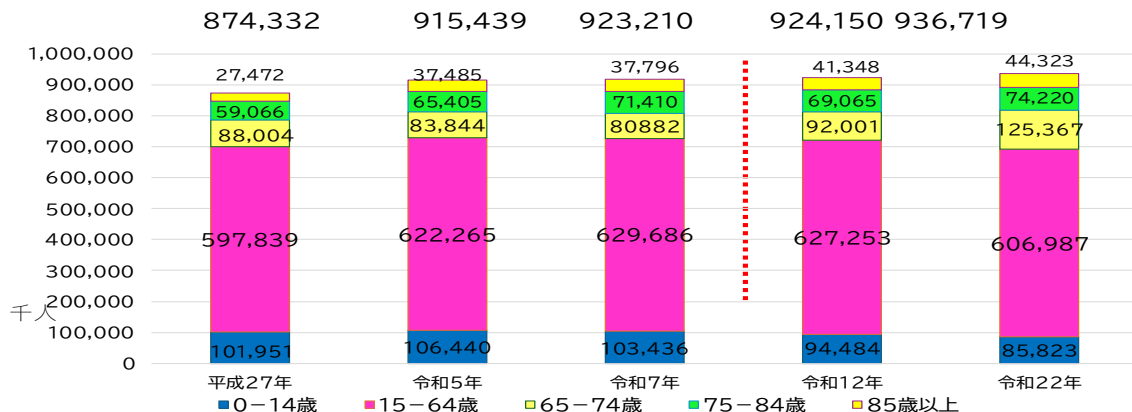
世田谷区の概要		令和8年1月		
総人口	928,666人	内 外国人 30,772人		
世帯数(1世帯平均)	508,002世帯 (1.83人)			
0~14歳	102,079人 (11.08%)			
15~64歳	634,278人 (68.32%)			
65歳以上	192,309人 (20.7%)			
介護保険の認定 (高齢者) 令和7年11月	42,767人 (22.24%)			
認知症状の高齢者 (日常生活自立度Ⅱ以上) ※令和6年3月	26,084人 (認定41,581人)	100歳~667人 (男91人女576人) 最高年齢113歳 (男106歳女113歳)		
平均寿命 令和2年 /平成27年 国勢調査	男性	83.2歳/82.8歳 (全国14位/3位)	障害者 令和6年4月 (自立支援医療・難病含)	47,622人
	女性	88.9歳/88.5歳 (全国6位/8位)	生活保護受給者 令和6年3月(保護率)	10,261人 (11.1%)

(1) 世田谷区の福祉人材を取り巻く状況と課題

1) 世田谷区将来人口推計

世田谷区の将来人口推計によると、団塊の世代が75歳以上（後期高齢者）となる令和7年以降も高齢者の占める割合が増える一方で、15~64歳（生産年齢人口）と0~14歳（年少人口）は一貫して減少する。 出展：世田谷区人口推計（令和5年7月）

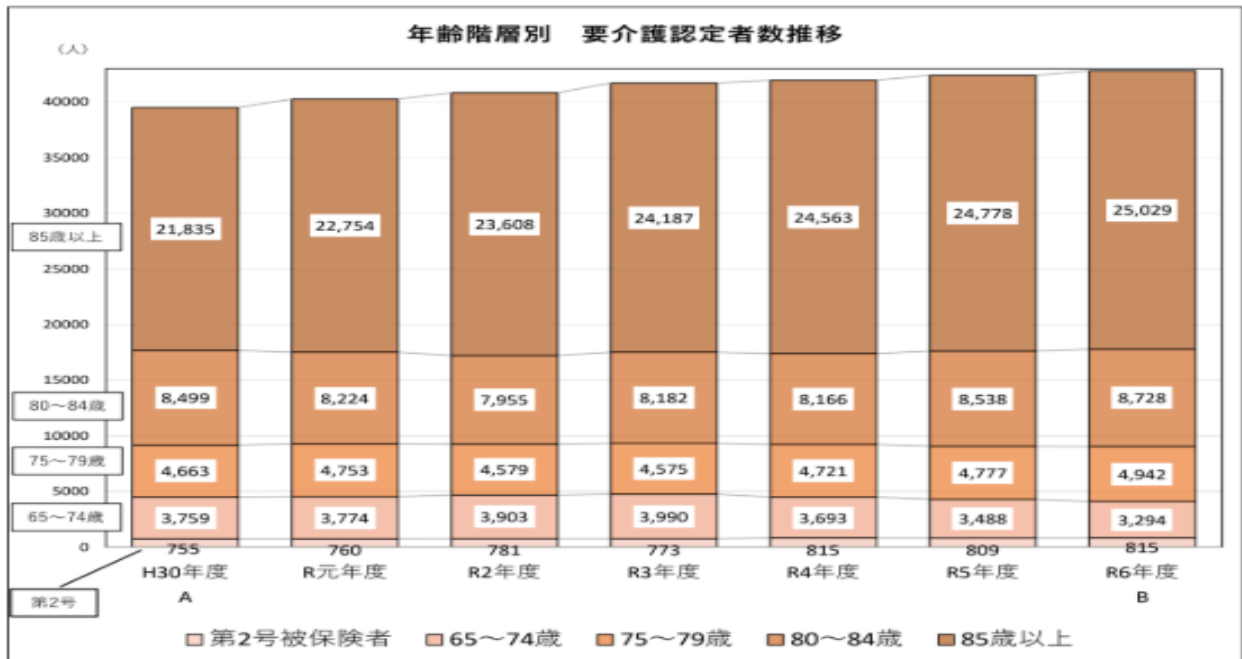
世田谷区の年齢構成別人口 各年1月1日 将来推計 R5年7月



	平成27年 2015年	令和2年 2020年	令和5年 2023年	令和7年 2025年	令和12年 2030年	令和17年 2035年	令和22年 2040年
総人口	874,332	917,486	915,439	923,210	924,150	931,336	936,719
高齢者人口(人)	174,542	184,244	186,734	190,088	202,414	222,032	243,910
65~74歳	88,004	86,375	83,844	80,882	92,001	111,032	125,367
75歳以上	86,538	97,869	102,890	109,206	110,412	111,000	118,543
高齢化率(%)	20.0	20.1	20.4	20.6	21.9	23.8	26.0

2) 第1号被保険者の年齢階層別の認定者の推移

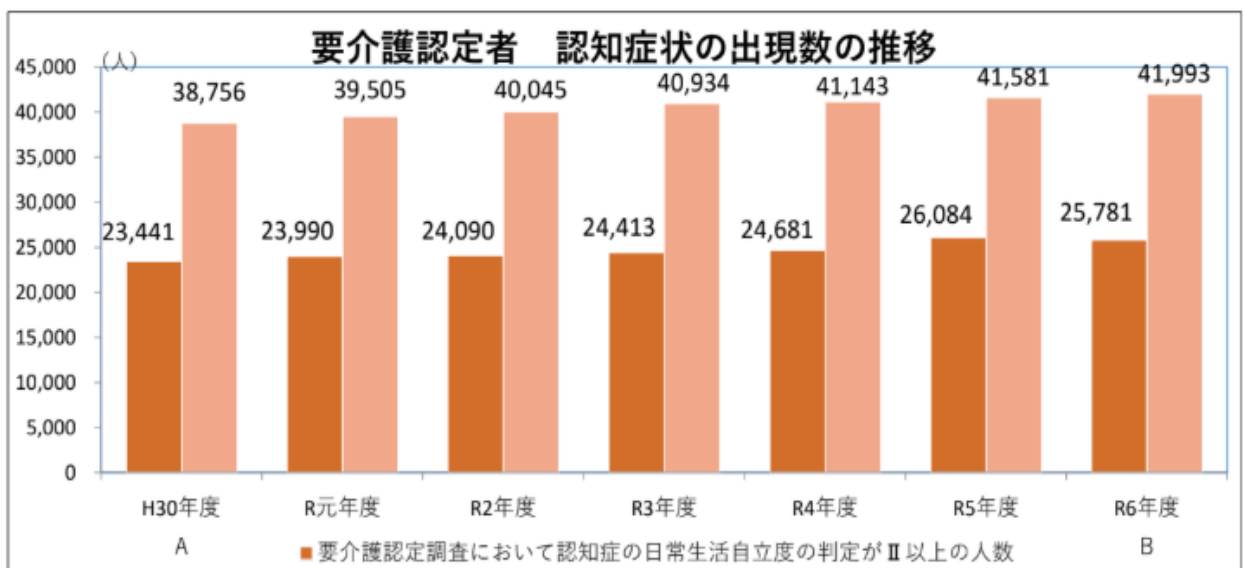
65歳以上の第1号被保険者の介護保険の要介護（要支援）認定者は、増加し続けており、令和6年度には4万2千人を超えている。要介護認定者の約6割は85歳以上となっている。



出典:介護保険事業状況報告

3) 要介護認定者 認知症状の出現数の推移

要介護認定者の約6割は何らかの認知症状を呈している。



出典：要介護認定調査において認知症の日常生活自立度の判定がⅡ以上の人数（認定調査データ）
第1号被保険者の要介護認定者（介護保険事業状況報告）

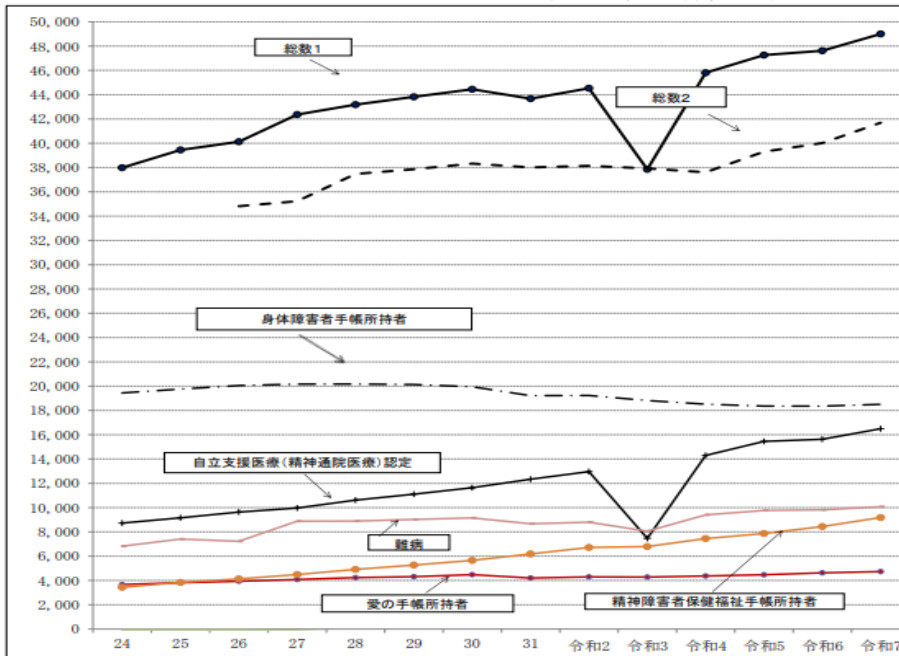
出典:介護保険事業状況報告

4) 障害者数の推移

障害者数は総数1・総数2のいずれも一貫して増加傾向にあり、総数1は平成24年37,983人から令和7年は49,005人へと約11,000人の増加となり、人口比では4.5%から5.3%へ増加している。総数2では、平成26年の34,816人から令和7年の41,691人と約6,900人の増加となっており、人口比では4.0%から4.5%へ増加している。

単位(人)

資料: 障害施策推進課(各年4月1日)



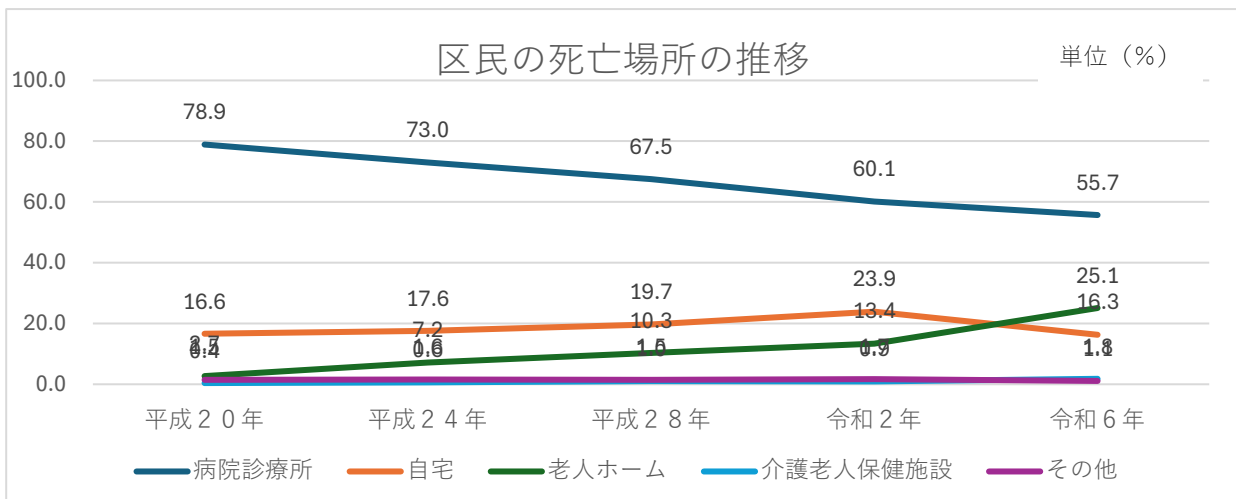
* 総数1 身体障害者手帳所持者と愛の手帳所持者(重複所持者数を除く) + 自立支援医療費(精神通院医療)認定件数 + 難病

* 総数2 各手帳の所持者数合計(身体障害者手帳と愛の手帳の重複所持者数を除く) + 難病

* 令和3年の一時的な減少は、令和2年度の新型コロナウイルス感染症により、自立支援医療(精神通院医療)の更新申請が不要となったため。

5) 区民の死亡場所の推移

最も多い病院・診療所は、平成20年の78.9%から令和6年55.7%へ減少する中で、微増傾向であった自宅も、令和2年の23.9%をピークに減少。一方、老人ホームは、平成20年の2.7%から令和6年21.3%と増加し、令和4年には初めて自宅を上回っている。



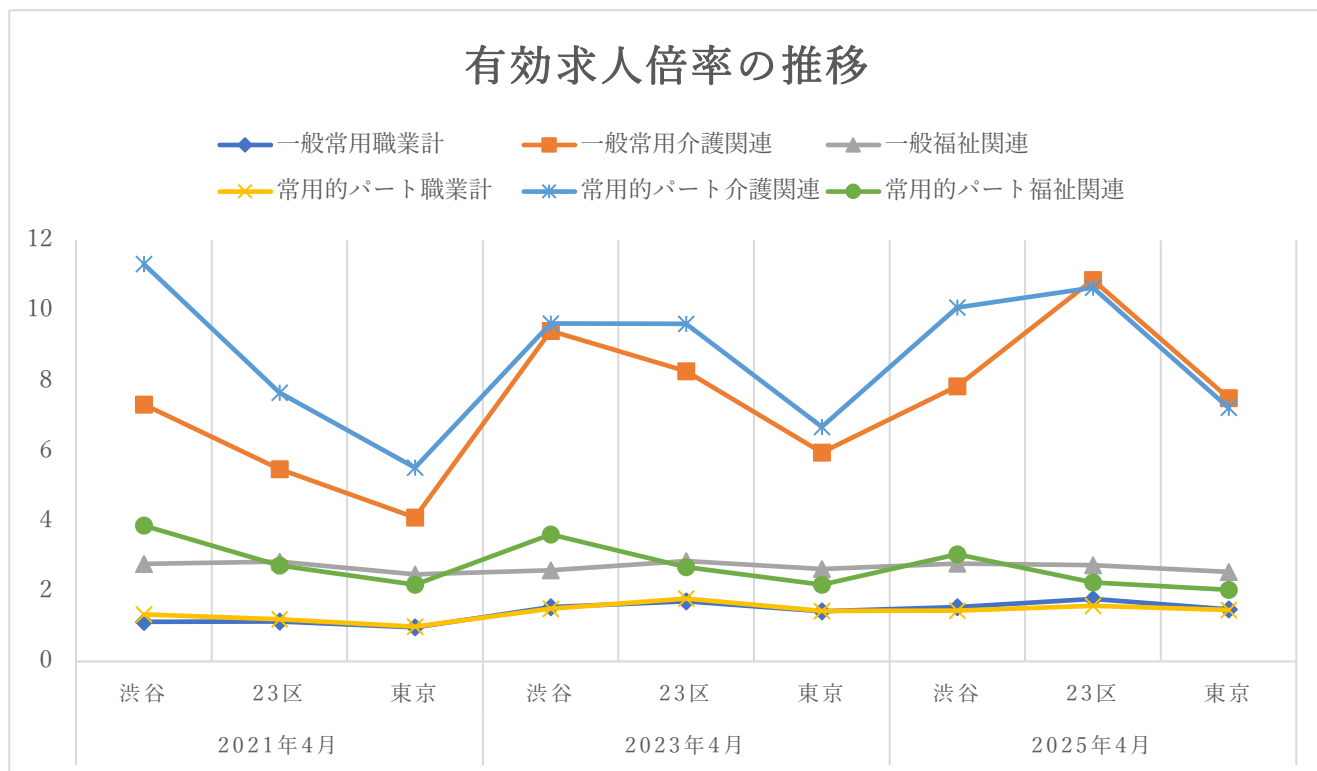
	病院等	自宅	ホーム	老健	その他	合計
平成20年	4530	950	154	21	84	5739
平成24年	4506	1084	445	40	96	6171
平成28年	4301	1254	657	66	95	6373
令和2年	4096	1625	915	63	114	6813
令和6年	3681	1075	1659	118	76	6609

単位(人)

II 世田谷区の福祉人材を取り巻く状況と課題

1 福祉・医療分野での有効求人倍率の状況

世田谷区が含まれる八ローワーク渋谷での介護関連の有効求人倍率は、2021年一般常用7.32、非正規11.32が、2025年には一般常用7.84、非正規10.08となっており、いずれも東京全体を上回る数値となっている。



	2021年4月			2023年4月			2025年4月		
	渋谷	23区	東京	渋谷	23区	東京	渋谷	23区	東京
一般常用職業計	1.13	1.14	0.97	1.55	1.71	1.43	1.55	1.78	1.48
一般常用介護関連	7.32	5.48	4.10	9.42	8.27	5.95	7.84	10.87	7.50
一般福祉関連	2.78	2.84	2.48	2.6	2.86	2.63	2.79	2.74	2.55
常用的パート職業計	1.34	1.20	0.99	1.50	1.79	1.44	1.45	1.58	1.47
常用的パート介護関連	11.32	7.66	5.52	9.63	9.62	6.68	10.08	10.65	7.23
常用的パート福祉関連	3.87	2.73	2.19	3.62	2.69	2.19	3.05	2.25	2.04

介護関連：福祉施設指導専門員、福祉施設寮母・寮父、ケアマネジャー、家政婦（士）、ホームヘルパー等

福祉関連：保健師、助産師、看護師、理学・作業療法士、視能・言語聴覚士、福祉相談指導員等

2 世田谷区の福祉人材施策

事業名	開始年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
(1)研修体制の構築						
世田谷区福祉人材育成・研修センタ ー	平成 19 年度					
(2)研修費助成制度						
特別養護老人ホーム等職員 研修費助成	平成 20 年度	36 事業所	47 事業所	45 事業所	46事業所	49 事業所
登録ヘルパー等研修受講助成	平成 21 年度	19 人	68 人	133 人	90 人	86人
(3)資格取得支援事業						
介護職員初任者研修課程等 受講料助成	平成 21 年度	75 人 障害含	高齢 117 人 障害 25 人	高齢 70 人 障害 18 人	高齢 65 人 障害 12 人	高齢62人 障害22人
介護福祉士実務者研修受講料 助成	平成 29 年度	108 人 障害含	高齢 126 人 障害 12 人	高齢 121 人 障害 23 人	高齢 103 人 障害 10 人	高齢 106 人 障害 16 人
介護福祉士資格取得費用助成	平成 29 年度	49 人 障害含	高齢 35 人 障害 8 人	高齢 58 人 障害 5 人	高齢 48人 障害 5人	高齢 47人 障害 5人
(4)定着支援						
世田谷区介護職員等合同入職式	平成 29 年度				35人	49人
世田谷区介護従事者等永年勤続 表彰式	平成 29 年度				121人	104人
デジタル環境整備促進事業	令和 3 年度		9法人 10 事業所	1 法人 1 事業所	1 法人 1 事業所	－
(5)人材確保支援						
介護職員等宿舍借り上げ支援	平成 30 年度	2 事業所 5 戸	3事業所 9 戸	4 事業所 18 戸	4 事業所 17 戸	3事業所 17戸
介護人材採用活動経費助成	令和元年度	120 法人	119 法人	109 法人	109 法人	100法人
特別養護老人ホーム介護職員 宿舍借り上げ支援	令和 2 年度	9 事業所 21 戸	12 事業所 31 戸	14 事業所 36 戸	14事業所 37戸	11事業所 29戸
地域密着型サービス事業所等 宿舍借り上げ支援事業	令和 4 年度			6 事業所 11 戸	11事業所 31 戸	15事業所 56戸

○認知症介護サポート事業(特養ホーム等介護ロボット導入経費助成)(平成 30 年度～令和元年度終了)

○訪問系介護事業所への電動アシスト自転車購入費用助成(令和 2 年度のみ 175 事業所 297 台)

○デジタル環境整備促進事業 (令和 3 年度～令和 6 年度終了)

3 福祉分野の計画における福祉人材対策

(1) 第9期世田谷区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（令和6～8年度）

- 基本理念

「住み慣れた地域で支えあい、自分らしく安心して暮らし続けられる地域社会の実現」

- 施策展開の考え方

- (1) 参加と協働の地域づくり
- (2) これまでの高齢者観に捉われない施策
- (3) 地域包括ケアシステムの推進

- 計画目標Ⅰ 区民の健康寿命を延ばす

計画目標Ⅱ 高齢者の活動と参加を促進する

計画目標Ⅲ 安心して暮らし続けるための医療・介護・福祉サービスの確保を図る

- 重点取組み (1) 健康づくりと介護予防の一体的な推進

取組み：保健事業と介護予防の一体的な取組みの推進、食・口と歯の健康づくりの質の向上、介護予防のための外出・社会参加促進の取組み

- 重点取組み (2) 高齢者の生きがいづくり

取組み：高齢者の社会参加の促進への支援、総合的な連携枠組みの整備の検討、地域人材の発掘・育成・活用

- 重点取組み (3) 在宅医療・介護連携の推進

取組み：在宅医療・ACPの普及啓発、在宅医療・介護のネットワークの構築、在宅医療・介護関係者間の情報の共有支援

➡ 5 介護人材の確保 及び育成・定着 支援

急速な高齢化による介護サービス需要の増大と生産年齢人口の減少が見込まれ、介護人材の確保は喫緊の課題です。誰もが自分らしく地域で安心して暮らし続けられるよう、介護サービスの安定的な供給を図るため、福祉・介護人材の確保及び育成・定着支援のための施策を総合的に展開していきます。

- ①さらなる介護職の魅力発信
- ②多様な人材の確保・育成
- ③働きやすい環境の構築に向けた支援

(2) せたがやインクルージョンプラン -世田谷区障害施策推進計画

(令和6～8年度)

<これまでの名称>

せたがやノーマライゼーションプラン
-世田谷区障害施策推進計画



<本計画からの新名称>

せたがやインクルージョンプラン
-世田谷区障害施策推進計画

- 基本理念

障害のある人もない人も お互いの人格や個性を尊重して 住み慣れた地域で支えあい 選択した自分らしい生活を 安心して継続できる社会の実現

- 行動コンセプト

「当事者の選択を支える」環境整備 情報アクセスのしやすさ、体験や選択の機会の確保、多様な福祉サービスの整備、既存サービスでの障害児者の受入れ、再利用を尊重する仕組み。「選択」するための支援、理解しやすい情報提供、選択肢を提示、選択の結果と選び直しを尊重

●重点取組1 医療的ケア児（者）の支援

●重点取組2 精神障害施策の充実

●重点取組3 人材の確保・定着

<取組の方向性>

- ・障害児者の自立を支援する技術やチームワークを学ぶ研修の充実
- ・ボランティアを含めた新たな人材の確保に向け、障害理解を進めるための施策の推進
- ・施設や事業所の職員等の心身の健康を守る取組

●重点取組4 災害への備えの推進

●重点取組5 情報コミュニケーション・アクセス手段の確保

●重点取組6 インクルーシブ教育推進 に向けた土台づくり

●重点取組7 障害理解促進・差別解消

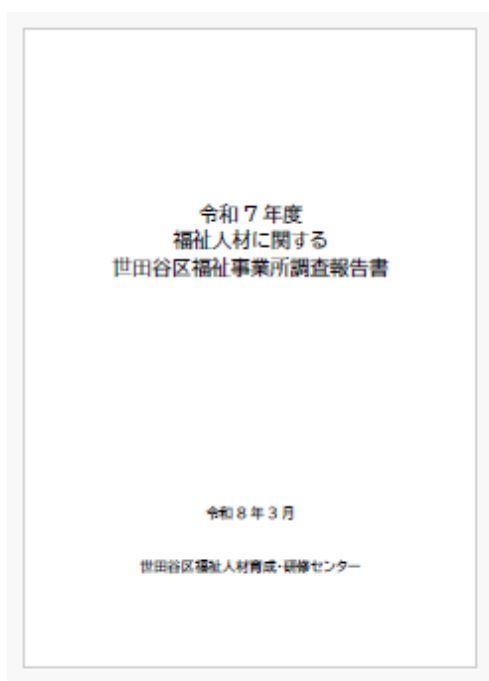
4 福祉人材確保・育成に関する調査概要と調査結果

調査目的	喫緊の課題である福祉人材確保に向けて、事業所の取組状況と課題等を調査し、解決策を探るとともに、好事例を収集し情報共有を図る。令和2年度から実施している特別養護老人ホームでの介護ロボット、外国籍職員等調査の経年変化を調査する。
調査日程	令和7年10月18日～令和7年12月1日
調査方法	配付：FAX またはメール送信 回収：FAX・フォーム回答
対象事業所 及び 回答事業所	配付事業所数：1,437 事業所（高齢：1,174 事業所 障害：263 事業所） 回答事業所：358 事業所（高齢：276 事業所 障害：82 事業所） 回収率：35.9%（高齢：26.9% 障害：9.0%） 回答事業所数：517 事業所（高齢：387 件 障害：130 件）
事業所種別	高齢分野 ：訪問介護、通所介護、訪問看護、短期入所、特定施設入居者生活介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能・看護小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、居宅介護支援、地域包括支援センター、福祉用具、都市型軽費老人ホーム 障害分野 ：居宅介護・重度訪問介護、同行援護、行動援護、生活介護、自立訓練、グループホーム、短期入所、児童発達支援、放課後等デイ、相談支援、休養ホーム、身体障害者福祉ホーム
調査項目	(1) 事業所職員の状況（派遣職員状況・新卒者採用・常勤平均年齢・障害者雇用） (2) 介護ロボット等の導入有無と効果 (3) ICT等の導入有無と効果 (4) 介護ロボット・ICT等の課題 (5) 外国籍職員 (6) 人材確保・職員の支援策 (7) 補助的業務 (8) 職場体験・社会福祉士等実習生等受入れ 等

参照 令和7年度 福祉人材に関する世田谷区福祉事業所調査報告書

ホームページ> 調査・研究報告> 令和7年度調査報告

> 令和7年度福祉人材に関する世田谷区福祉事業所調査



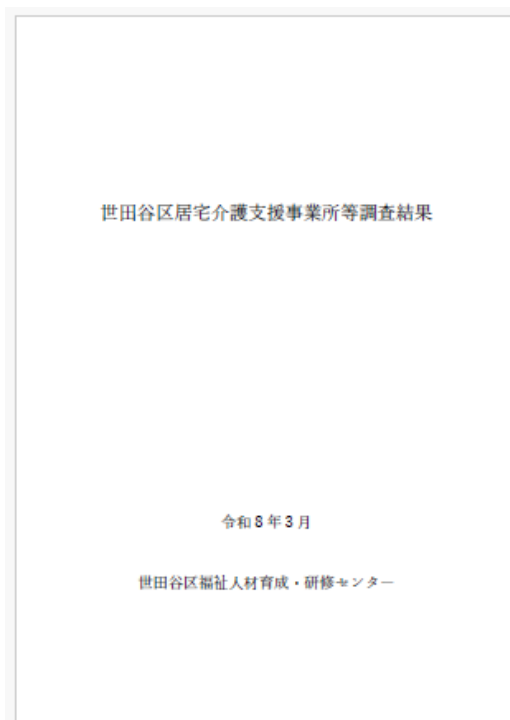
5 世田谷区居宅介護支援事業所等調査概要と結果報告

調査目的	喫緊の課題である福祉人材不足、特にケアマネジャーの確保・育成・定着支援における課題を把握するため、世田谷区高齢福祉部、世田谷区福祉人材育成・研修センター、世田谷ケアマネジャー連絡会の三者合同で実施			
調査日程	令和7年8月29日～9月15日（リマインド：～9月22日）			
調査方法	配付：世田谷区高齢福祉部より FAX 送信 回収：Google フォームにより研修センター受理（一部 FAX 受理）			
対象事業所 ・ 回答事業所 ・ 回収率	対象事業所	配付数	回収数	回収率
	居宅介護支援事業所	209	143	68.4%
	あんしんすこやかセンター	28	22	78.6%
	特定施設入居者生活介護	77	20	26.0%
	認知症対応型共同生活介護	46	16	34.8%
	看護・小規模多機能	23	10	43.5%
	介護老人福祉施設(地密含)	30	9	30%
	介護老人保健施設	7	2	28.6%
事業所種別	世田谷区内の居宅介護支援事業所等 420 事業所			
調査項目	(1) 法人種別 (2) 特定事業所加算 (3) 運営年数 (4) 併設事業 (5) ケアマネジャーの年代・人数 (6) 事務専従職員 (7) ケアマネジメントの依頼を断ったこと (8) ケアプランに位置付けられなかったサービス (9) ケアマネジメント上の課題 (10) 必要なサポート (11) ケアマネジャーへの必要なサポート (12) 研修の参加状況 (13) 研修参加を促すため必要なこと 等			

参照 令和7年度 世田谷区福祉事業所調査報告書

ホームページ> 調査・研究報告> 令和7年度調査報告

> 世田谷区居宅介護支援事業所調査報告書



6 福祉の仕事の魅力向上・発信

(1) 福祉のしごとの魅力発信 動画

事業概要	福祉・介護の仕事の魅力の発信に向けて動画を作成。研修センターホームページに掲載し、広く福祉への理解への促進を図る。
掲載動画及び内容	① せたがや福祉のしごと入門講座 座談会「福祉のしごとの魅力」 介護の仕事への就労を考えている方に向け、区内3名の KAiGO PRiDE アンバサダーが、介護の仕事を選んだきっかけ、やりがい、心に残っている出来事等について、熱いメッセージを送る。 ② 「ありがとう メッセージ」 福祉・介護職の職員にとって何よりの原動力となる、ご利用者・ご家族からの「ありがとうメッセージ」を動画に編集。 ③ 「ベテランケアマネジャーが語る ～その人らしさを支えるケアマネジャーの仕事の魅力～」 ケアマネジャー資格取得を目指す方に向け、現役の3名のケアマネジャーから、自身がケアマネジャーになったきっかけ、やりがい、心に残っている出来事等について想いを語る。 ④ 「介護の仕事を支える 外国人介護職員インタビュー」 区内特別養護老人ホームで働く外国人介護職員が、来日したきっかけから、介護の仕事の想いと「やりがい」、後輩に伝えたいことなどを語ります。

研修センターホームページ 福祉の理解・福祉のしごと・先駆的な取り組み

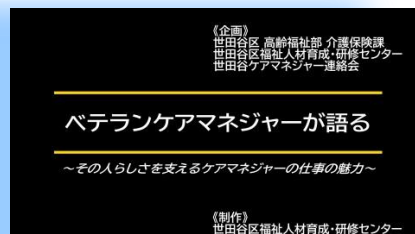
IMPORTANT

【新設！】福祉・介護のしごと 魅力発信

「いつもありがとう」「あなたで良かった」。ご利用者からのその一言は、福祉・介護職の職員にとって何よりの原動力です。福祉・介護の仕事は、誰かの人生に寄り添い、直接感謝を分かち合える、心温まる仕事です。日常の触れ合いの中にある小さなエピソードや出来事と一緒に喜び、笑顔をつなぐ…。そんな福祉・介護の仕事の魅力を動画で紹介します。

福祉のしごと・先駆的な取り組み

- 福祉のしごと
- **福祉・介護のしごと 魅力発信** 【NEW】
- 広報紙「じんざいくん便り」
- 広報誌「福祉のしごと ふくしごと」
- 令和7年度 せたがや福祉のしごと入門講座、相談・面接会/区内介護施設等見学会 日程一覧
- KAiGO PRiDE @ SETAGAYA 写真展
- 先駆的取り組み事例
- 先駆的な取り組みシンポジウム（公開講座）
 - ・令和6年度
 - ・令和5年度
 - ・令和4年度
 - ・令和3年度



ケアマネの魅力発信動画



福祉の仕事イメージアップ動画



介護の仕事の魅力発信動画

(2) 福祉のしごと 魅力向上・発信シンポジウム

タイトル	これからの世田谷の福祉を考えるシンポジウム ～「誰一人取り残さない」地域共生社会の実現～
目的	介護サービス需要が増加する中で転換期にある社会福祉の動向を学ぶとともに、世田谷区における福祉の課題と取り組みを知り、誰もが自分らしく安心して暮らし続けられる世田谷を創るために福祉の専門職として何をなすべきか、みんなで考える。
開催方法	研修センターから講演内容を Zoom 配信し、視聴者の質問をチャット等で受け付け回答する。内容は後日、研修センターホームページで録画配信する。
開催日	ライブ開催：令和8年3月23日 録画配信：令和8年4月1日～
内容	第1部 基調講演 中村 秀一氏 世田谷区地域保健福祉審議会会長 「これからの世田谷の福祉に求められるもの」 調査報告 世田谷区福祉人材育成・研修センター 瓜生 律子 第2部 事業所の実践報告 進行 中村 秀一氏 実践報告・意見交換 進行 中村 秀一氏 ①「地域共生社会と新しい認知症観」 ふくろうクリニック等々力 山口 潔氏 ②「施設長会の取り組みとこれからの特養の役割」 特別養護老人ホーム 博水の郷 田中 美佐氏 ③「ケアマネジャーから見える世田谷の福祉の未来」 世田谷ケアマネジャー連絡会 佐藤 庸平氏 ④「地域と繋がる介護サービスネットワーク」 世田谷区介護サービスネットワーク 徳永 宣行氏 ⑤意見交換
対象	世田谷区内でサービスを提供している医療・福祉サービス事業所職員

ホームページ> 福祉の理解・福祉のしごと・先駆的な取り組み> 福祉のしごと・先駆的な取り組み
> 先駆的な取り組みシンポジウム

【シンポジウムの様子】



① 基調講演 中村 秀一氏 世田谷区地域保健福祉審議会会長
「これからの世田谷の福祉に求められるもの」資料より（抜粋）

世田谷区福祉人材育成・研修センター
「これからの世田谷の福祉を考える」シンポジウム
～誰一人取り残さない 地域共生社会の実現～

2026年3月23日

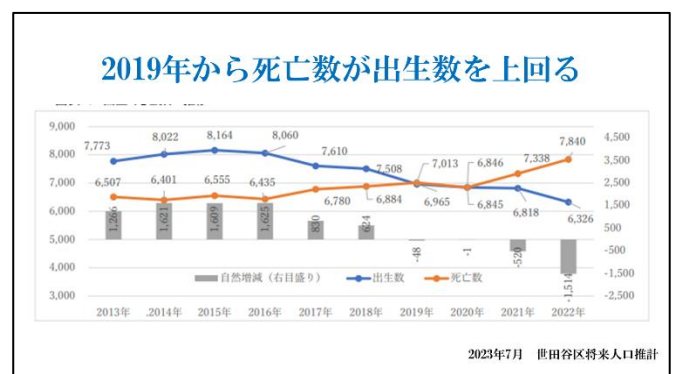
これからの世田谷の福祉に 求められるもの

世田谷区地域保健福祉審議会会長
中村 秀一



福祉を取り巻く状況

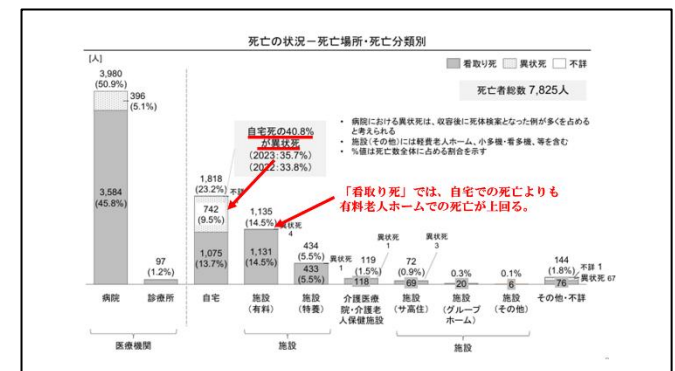
- 少子高齢化の進行と人口減少の深刻化
- 諸物価の高騰と2024年以降の大幅な賃上げ
- 国際政治・経済状況の不安定化
- 頻発する自然災害、記録的猛暑など異常気象



世田谷版地域包括ケアシステム： 10年の振り返り

平成26年策定の地域保健医療福祉総合計画において「地域包括ケアシステムの推進」を打ち出し、高齢者のみならず、あらゆる人を対象とした世田谷区独自の地域包括ケアシステムの構築、推進を各分野横断的に進めてきた。（令和6年度からの計画で「世田谷版地域包括ケアシステム」と正式に呼ぶようになった）世田谷版地域包括ケアシステムは令和7年度に10周年を迎えることとなり、これを機に改めてこれまでの取組みを振り返り分析を行うことで、その強みや課題を再認識し、65歳以上人口のピークを迎える2040年代に向けて「世田谷版地域包括ケアシステム」のさらなる発展を目指す。

2025年8月1日 地域保健医療福祉審議会資料



「誰一人取り残さない」ために

- 自宅で死亡した者の10人に一人が「不詳の死・その他」となっている。
- 地域での「見守り」をどう構築するか。
- 高齢者施設での看取り > 自宅での看取り
高齢者施設での「看取りの質」は大丈夫か？

超高齢社会のニーズ

- 単身の超高齢者の増加
- 「終身サービス」というニーズ
- 認知症など意思決定支援の必要性
- 悪徳商法などから防衛（消費者保護）

年齢階層別認定率の推移

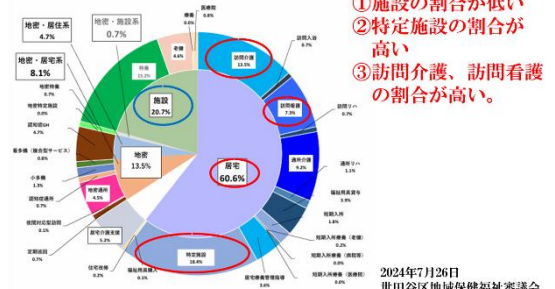
年齢階層が上がると認定率が上昇するが、年齢階層別の認定率は低下傾向にある。

	第6期			第7期			第8期			第9期		
	H27年度	H28年度	H29年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
65～74歳	4.3%	4.3%	4.4%	4.3%	4.6%	4.5%	4.6%	4.4%	4.3%	4.1%		
75～79歳	14.4%	13.3%	13.4%	13.1%	13.3%	13.2%	13.2%	12.6%	12.2%	12.0%		
80～84歳	31.5%	30.7%	30.3%	29.9%	29.3%	28.4%	28.4%	28.1%	27.9%	28.0%		
85歳以上	55.2%	64.8%	65.0%	64.8%	64.7%	64.2%	64.2%	64.5%	64.3%	64.3%		
第1号介護保険者	20.6%	20.5%	20.9%	21.0%	21.3%	21.4%	21.8%	21.9%	21.9%	21.9%		

2023年7月5日/25年8月1日
高齢者福祉・介護保険部会

世田谷区

世田谷区の総費用における提供サービスの内訳（令和6年度）割合 世田谷区の特徴



目指すべき世田谷の福祉

- 区民の力を引き出し（エンパワーメント）、**区民の参加と活動を促すコミュニティ**
 - ・人材が豊富であるという区の特性も生かす
 - ・区民を施策の対象と捉えるのではなく、**自ら地域をつくり・支える存在**として位置付ける
- 皆に「**居場所と出番**」があるまちづくり
- 「**活動と参加**」が区民の健康にも貢献する。

これからの世田谷の福祉の実現に向けて

- 利用者の目線**で考える
- 行政、事業者、区民の協働が必要
- 「**実のある施策**」を組み立て、**成果を重視**
- そのための**評価基準**
 - ・従来の基準：ストラクチャー、プロセスの評価
 - これからの基準：アウトカム、結果重視の評価**

② 調査報告 瓜生 律子 世田谷区福祉人材育成・研修センター

「2つの調査からみえる 福祉事業所の現状と課題」資料より（抜粋）

2つの調査

① 居宅介護支援事業所等調査

世田谷区高齢福祉部、世田谷区福祉人材育成・研修センター、世田谷区ケアマネジャー連絡会の三者合同で実施
・ケアマネジメント研修の見直しを検討する中で、ケアマネジメントにおける現状と課題を把握するため、調査を実施
外、「ベテランケアマネジャーが語る～その人らしさを支えるケアマネジャーの仕事の魅力」動画配信
「ケアマネジャーの仕事の実際」(作成中)

② 福祉人材に関する世田谷区福祉事業所調査

- ・福祉事業所における福祉人材の現状と課題
- ・令和2年度から実施

●公表：3月末に区へ報告後、研修センターホームページで公開

依頼を断ったこと

- ケアマネジャー不足でケアマネジメントの依頼を断ったこと
居宅介護支援事業所102か所（71.3%） あんしんすこやかセンター1か所（4.5%）

	全体(か所)	あり	なし
居宅介護支援事業所	143	102(71.3%)	41(28.7%)
あんすこ	22	1	20

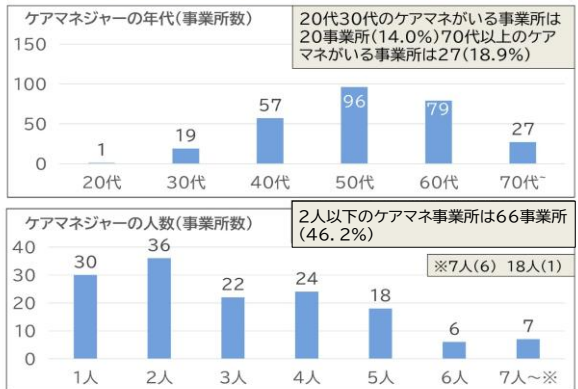
- ケアプランに位置付けられなかったサービスがある
居宅介護支援事業所49か所（34.3%） あんしんすこやかセンター7か所（31.8%）

		あり	なし
居宅介護支援事業所	143	49(34.3%)	94(65.7%)
あんすこ	22	7(31.8%)	15(68.2%)

- ケアプランに位置付けられなかったサービス ①訪問介護29か所（59.2%）
②通所系が22か所（44.9%）

		訪問介護	通所系	訪問看護	短期入所	定期巡回
居宅介護支援事業所	49	29(59.2%)	22(44.9%)	2(4)	10(20.4)	8(16.3)
あんすこ	7	4(18.2%)	1			

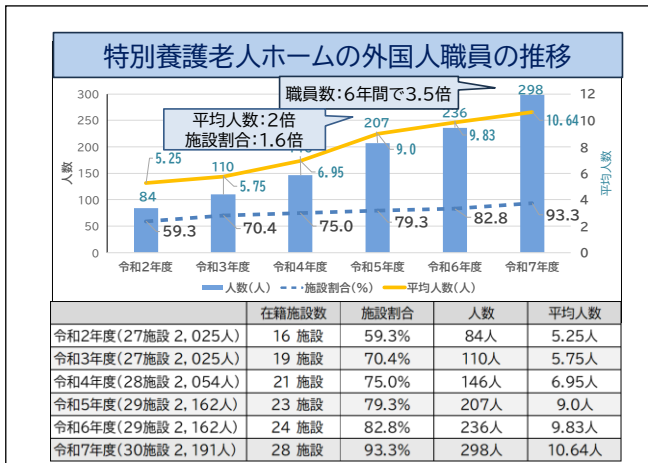
ケアマネジャーの年代・人数



ケアマネジメント上の課題

- 居宅介護支援事業所 : ①業務量が多い92か所(64.3%)
②家族の理解82か所(57.3%)
③シャドーワーク80か所(55.9%)
④精神的負担が多い77か所(53.8%)
- あんしんすこやかセンター: ①業務量が多い18か所(81.8%)
②精神的負担が多い12か所(54.5%)
③家族の理解・CMの温度差・シャドーワーク11か所(50%)

	サービス調整	医療との連携	家族の理解	認知症対応	資源情報不足	運営基準情報不足	業務量が多い	精神的負担が多い	CMの温度差	法人の理解不足	シャドーワーク	サービス量不足
居宅介護	143	38	25	82	48	40	25	92	77	32	22	80
あんすこ	22	5	2	11	6	1	18	12	11	4	11	6



特別養護老人ホーム外国人職員在籍者の状況

【参考】東京都社会福祉協議会高齢者福祉施設協議会調査
調査期間:令和6年8月23日~9月25日
回答状況

施設種別	回答数	件	%
特別養護老人ホーム	317		85.0
養護老人ホーム	25		6.7
軽費老人ホーム	31		8.3

外国人職員等の雇用状況 ★世田谷区の特別養護老人ホーム 82.8%

施設種別	雇用している	雇用していない	検討中	わからない
特別養護老人ホーム	243/76.7	62/19.6	12/3.8	
養護老人ホーム	4/16.0	19/76.0	1/4.0	1/4.0
軽費老人ホーム	2/6.5	28/90.3	1/3.2	
合計	249/66.8	109/29.2	14/3.8	1/4.0

外国人職員の比率

回答数	件	0~10%	10~20%	20~30%	30~40%	40~50%	50%以上
件	146	62	24	9	7	1	
%	58.6	24.9	9.6	3.6	2.8	0.4	

★世田谷区の特別養護老人ホーム推計 介護職員数 28
2:1=2.5:1=1,096人~877人 298人/1,096人~877人=27.2~34.0%



詳細: 研修センターホームページ > 調査・研究報告 > 令和7年度調査報告書
> 福祉人材に関する世田谷区福祉事業所調査報告書
> 世田谷区居宅介護支援事業所等調査報告書

●シンポジウム 質疑等

世田谷の福祉を支えていくには

新しい認知症の取り組みの中で家族や地域が、認知症に寛容でなくてはならないという話があった。世田谷の福祉を支えていくのは事業者だけでない、むしろ支える人が増えることが大切で、地域の力が大事とした。認知症に寛容であることという話もあった。地域の力を育むことは共通していると思うが、そのためにどうしたら良いか。

➡ 認知症の方の心、思いを一般区民の方が理解することが一番大切。どう区民に伝えるか、わかりやすく認知症の方の状況をもっと伝えていく取り組みが必要。その人の歩んできたヒストリーを踏まないとならず、そこがケアマネの大事な役割である。

➡ 私たちはその方の課題、問題点に視点を合わせてきた。例えば、転びそうだからなるべく車いすにするとか、日中、暇だからデイサービスに行っていたとかである。介護保険制度が始まって20年以上経つが、いまだにケアマネの基本的視点である気がしてならない。リハビリ的視点だが、リスクさえ押さえればここに手すりさえつけば、もっとできるかもしれない。本人がやってこれたことを、周りの人がもう少しリスクをサポートすれば続けられるかもしれない。その方の自己実現を図れるのが、果たしてデイサービスだけなのだろうか。昔馴染みが集まれば、もう少し実現できるのではないか。そういう視点をもつことによって、その人らしくというのが実現できる場がたくさんあるように思う。これは認知症の方も同様で、閉ざされている方はいっぱいいる気がする。

施設介護での認知症ケアの取り組み

特養の現場で認知症が1つのテーマだが、入居者平均年齢88歳と超高齢者になっているし、認知症の方も多い。特養におけるケア、介護において、認知症の方にどうケアしていくか。

- ➡ 私の施設ではほぼ9割が認知症である。認知症の方はそれぞれの世界を持っている。職員は、その世界に入って認知症ケアを行っている。言っていることはよくわからないにしても肯定して対応する。どこの世界の話だろうと一緒に話しており、満足されている。
- ➡ かつて措置の時代は特養に入る方の年齢ももう少し若かったし、平均的な入所期間が5年くらいであった。今、超高齢となって入所期間も短く移動が激しくなっていると聞いている。
- ➡ 90人の施設であるが、今は年に20～30人入れ替わる。平均年数は3年程度。特養への入所は要介護3以上となり、入居期間が短くなった。
- ➡ ぜひ、介護施設の実態も区民の方に理解してもらいたい。地域に開かれた施設とあったが、閉じこまらずにオープンな施設で、人が出入りするというのが、世田谷の施設に求められるのではないかと思う。

小規模事業所の課題とネットワークへの期待

介護サービスネットワークが、他の事業者団体と異なり、複数の種類の事業者がネットワークを組んでいる。どうしても介護事業者は他事業に比べると中小企業というより零細企業であるとの話があり、それぞれが独立していることは大変だと思うが、零細なうえに抱えている問題も多いと思う。ネットワークとしては、どう捉え、解決のためにどう取り組みされているか。

研修センターは、まさにそういう事業所のサポートのために世田谷区の事業として置かれているセンターである。研修その他、各事業所でなかなかできないことをやることで役割を果たしている。研修だけでなく、今は賃金、物価の高騰、人手不足などが課題である。その点、介護ネットワークはいかがか。

- ➡ 中小零細が多くなっており、訪問介護が一番多い。介護保険が始まって26年。その当時から地域のために思って開業された方が、自身が後期高齢者となって、事業継続が難しい事業所が増えてきた。そこで地域の事業所として協力して守っていこうとする横のつながりを大切に対応しようとしている。防災も一つの事業所では備蓄なども困難。こちらがだめなら誰が支えていくのかということも、話し合っている。賃金も特定事業所加算を取っていかなければならない。その申請や書類作成などの情報も共有している。競合ではなく協力して一緒に地域を支えようとしている。
- ➡ 審議会でも零細企業が多く、24時間365日対応する訪問看護などは、小規模ではできないのなら、やはりネットワークを組まないとならないという話があったが、いかがか。
- ➡ 医師会も小規模事業所の集まりである。本当は診療報酬という制度でネットワークが位置づけられると良いと思うが、まずは個別に始めることは大切だろう。

おわりに

医療も社会福祉も連携法人制度ができており、いろいろ考える余地はあるかと思う。職員不足、とくに若い人は来てくれない。世田谷区には福祉学部を擁する大学があるのに、福祉学部の学生が就職してくれない。スタッフ自身が高齢化し、ヘルパーの平均年齢が70歳を超えているとの話もある。区内の現状として、高齢独居が増え、老老介護の問題がある。複雑なニーズを抱えた家族、個人が存在する。口コモ、フレイル、認知症、家族、家計、経済問題。困難なことを数え上げてみてもきりがなくらいである。

世田谷区版地域包括ケアも3者連携で十分か、総合支所との連携はどうか。シャドーワークの問題、カスタマーハラスメントもある。そうした中で、しかしそれを乗り越えて道を切り拓いていく必要がある。従来にも増して、認知症やフレイルなど早期発見、早期介入が必要とされている。みんなが集まって一緒に食事をすることが何より励ましになる。そうした通いの場を地域で整備していくことが必要だという議論もある。

本日のシンポジウムも含めて、いろんな角度から世田谷区の福祉の問題を考えて頂きたい。困難はあるが、それを乗り越えて2040年に向けて新たなスタートを切る時期になってきたのではないか。

●シンポジウム 参加者アンケートより

気づきを得たこと

- ➡ 医療従事者や福祉事業団体、行政のみではなく、患者・利用者・家族・住民一人一人が地域の情勢を理解し支え合えることが必要だと感じた。啓発活動や実働にて一人でも多くの方に向き合いながら、働いている人も地域の住民も共に楽しく過ごせる社会を目指していきたいと感じた。
- ➡ 認知症についてのトピックスが印象的でした。「地域住民が認知症について寛容になること」というフレーズが現在行っているアクション講座の内容ともリンクしてストンと腑に落ちるような感覚でした。現実はその周知・情報提供を始めた段階だと思いますが、数年先・遠からずの将来に認知症についての認識がまた変わっている可能性があるのだと、今の取り組みを改めて感じることができました。

活用できる点について

- ➡ 現在も、地域のさまざまな事業所との協力・協同を図ることができていると思いますが、世田谷全体、地域全体でのネットワークをより意識した関わりをさらに進めていけるとよいと思いました。今の連絡会や会議体を具体的に、図式化できるようなものにできるのではないかと感じています。
- ➡ 介護支援専門員の倫理研修で地域課題の解決に向けた取り組みがケアマネジャーにも必要なことを伝えたい。
- ➡ 主マネとして地域力を発見向上させていきたいと思います。

7 外国人職員交流会

タイトル	外国人職員交流会
会場	世田谷区福祉人材育成・研修センター 研修室 C
開催日	令和8年3月6日(金) 14時~16時
参加者	37名(外国人職員17名 付添職員12名 関係者8名)
内容	世田谷区の状況・外国人介護職員インタビュー動画視聴、世田谷区文化・国際課の取り組み、国際交流センタークロッシングせたがや事業紹介、自己紹介、グループワーク、発表

(1) 世田谷区の状況・外国人介護職員インタビュー動画視聴



ときわぎ世田谷	グエンティレートウイ
ときわぎ世田谷	ポーゴックタインニャン
ときわぎ世田谷	高畑 健一
弦巻の家	ハンダー ニン
弦巻の家	タンダー ウー
弦巻の家	永田 麻耶
世田谷希望丘	サラ アンガルダ パラミタ
世田谷希望丘	リスマヤンティ
世田谷希望丘	飛松 辰弥

(2) 世田谷区国際課による世田谷区の取組み(抜粋)

世田谷区

世田谷区の状況

世田谷区の人数(2026年1月1日現在)

世田谷区に住んでいる人は、約93万人で、23区の中で一番多いです。

外国人は約3万8000人住んでいます。

人口	外国人の人数	外国人の割合
928,666人	30,772人	3.31%
1位/23区中	10位/23区中	23位/23区中

出典：住民基本台帳(2025年1月1日)

世田谷区の状況

国籍・地域別外国人数

中国の人が一番多い。2番目は韓国の人が多い。

順位	国名	令和8年1月	令和7年1月	増減数
1	中国	9,382	8,380	1,002
2	韓国	4,439	4,315	124
3	米国	2,563	2,363	200
4	ベトナム	1,677	1,480	197
5	台湾	1,292	1,272	20
6	フィリピン	1,122	1,073	49
7	ネパール	1,007	801	206
8	英国	983	967	16
9	フランス	783	749	34
10	インドネシア	723	595	128
11	その他	6,801	6,207	594
合計		30,772	28,202	2,570

出典：住民基本台帳(2026年1月1日)

世田谷区

世田谷区のとらきみ

- 2018年4月：「世田谷区多様性を認め合い男女共同参画と多文化共生を推進する条例」を作りました。条例は世田谷区の決まりの事です。
- 2019年3月：「世田谷区多文化共生プラン」という、計画を作りました。
- 2024年4月：「世田谷区第二次多文化共生プラン」がスタートします。

世田谷区が目指す基本理念(もとななる考え方)

誰もがが参画・活躍でき、人権が尊重され、安心・安全に暮らせる多文化共生のまち せたがや

だれもがいっしょにさんかして、かつやくできる。じんけんがだいににされて、あんしんしてあんなににらせる。こくせきやみんそくなどがちがうひとたちが、おたがいをみとめてたいとうにいっしょにいきていくことができるまちを めざします。

世田谷区

せたがや国際交流センター(クロッシングせたがや)

区の国際交流・多文化共生の拠点です。いろいろな しょうほう ていきょう こうざく こうりゆういべんと 色々な情報の提供や講座・交流イベントをやっています。

火~日曜 @10:00-18:00(年末年始除く) オープンしています。

@三軒茶屋駅そばのキャロットタワー2階

☎ 03-5432-1538

(3) グループワーク

①来日の理由

- ・医師からEPAを紹介された。日本の介護を学びたかった。
- ・インドネシアでは介護の仕事がない。先輩に勧められた。
- ・日本の文化を学びたい。日本の文化に興味があった。
- ・インドネシアでは看護師をしていた。認知症について学びたかった。
- ・介護の制度が進んでいて、将来、インドネシアで施設を作りたい。
- ・外国で働きたかった。
- ・広島にいとこがいる。姉が三重県にいる。
- ・アニメに興味。
- ・日本はきれい。安全。景色がきれい。

②困ったこと

- ・勉強していた日本語と違い、戸惑いを感じた。利用者と話すのが難しかった。言葉はわかるが会話が難しい。方言が難しい。漢字、ひらがな、カタカナと種類が多く、パソコンを打つのが大変。敬語が難しい。同じ漢字でも読み方や意味が異なる場合がある。
- ・文化の違い。
- ・豚肉、お酒などがダメだが食品に入っているかわからない。お店選びが困る。ハラルのお店が少ない。
- ・インドネシアは一年中暖かいが、寒い。季節に慣れていない。
- ・ごみの捨て方、乗り物（電車、バス）の乗り方が難しかった。
- ・ラマダンの時期の仕事は難しい。
- ・駅の看板もわからない。
- ・トイレに頻回に行きたいと言う方や家に帰りたいという方の対応。
- ・同じ国の先輩がいなかったこと。
- ・保育園に入れないと職場復帰できず、ビザにもかかわるので入りやすくしてほしい。
- ・花粉症が辛い。ベトナム、インドネシアには花粉症はない。日本で発症した。

③嬉しかったこと

- ・ありがとうと言われること。喜ばれたこと、利用者が元気になったこと。
- ・先輩職員が色々教えてくれること。
- ・あなたに会えて嬉しい、安心、良かった、頑張っただねと言われたこと。
- ・利用者とイベントの準備ができること、日本の食べ物を準備できたこと。
- ・困った時は先輩に相談して教えてもらえること。利用者さんに色々教えてもらった。
- ・一緒に働く職員が仲良くやれること。
- ・日本の文化を学べること。茶道や着物など。
- ・スキーに行ったこと。白川郷に入ったこと。京都に行った。先輩が上高地に連れて行ってくれた。北海道に3回行った。
- ・日本には四季があって嬉しい。秋が好き。
- ・毎日が楽しい。桜、雪が好き。電車の乗るのが新鮮。

④やりがい

- ・誰かの役に立っていること、この仕事をしていて良かった。
- ・利用者の笑顔、生活の質があげられること。
- ・自分の利用者もできなかったことができるようになり嬉しい。

⑤これからの夢

- ・介護福祉士になること。
- ・ベテランの介護職員、看護師になること。

- ・日本で学んだことをインドネシアに還元したい。
- ・日本で長く働きたい。結婚しても日本で働きたい。
- ・日本語をマスターして家族と暮らすこと。
- ・家族を聖地メッカに連れていくこと。サウジアラビアに巡礼に行きたい。
- ・運転免許を取ること。
- ・富士山に登りたい。
- ・世界中を旅したい。ドイツ、イギリスに行きたい。



自己紹介…皆さん、日本語がとてもお上手です。 グループワーク…楽しく盛り上がりました。



全員で記念撮影

8 令和7年度の研修センターの主な取組み

(1) 福祉の理解促進

1) 夏休み小・中・高校生福祉体験

事業概要	次世代を担う小学1～6年生親子、中学生、高校生を対象に介護施設の紹介や介護体験を行うことで、福祉について身近に感じてもらい、福祉の理解を促進する。
日程	令和7年7月28日～8月7日（7日間、14回）
開催方法	対面
参加者	参加者 385名（保護者含む） 申込者 458名
内容	（1）「新しい介護～特別養護老人ホームの取組み」動画視聴 （2）車いす・介護ベッド 動画視聴・体験 （3）「リハ・スポーツの取組み」動画視聴 （4）ポッチャ体験
周知方法	区内小・中学校、図書館、児童館、まちづくりセンター等でチラシ配布。区のお知らせの掲載、すぐる（学校緊急連絡情報配信サービス）、区内一部高等学校へのポスター配付

テキスト



体験の様子「車いす体験」



ポッチャ体験



<参加者の声>

- ・身近にあっても使い方が分からないものが理解でき、知っているとしても助かるものなど、とても勉強になりました。参加させていただけて、とても良かったです。
- ・車いす体験ができて良かったです。子ども達も乗る人、押す人のさまざまな場面での気持ちが少し分ったと思いました。
- ・社会の中で障害者が不利にならないような仕組みがあったり、障害者のための道具があったり、将来の自分がもし障害者になっても安心して暮らせる生活が目に見えていて、うれしく思いました。
- ・車いすで点字ブロックの所を通る時、予想以上にガタガタだったので、押す人は注意深く押さなきゃいけないと分かった。

<今後に向けて>

- ・実際に車いす・介護ベッド体験ができ、「体験できてよかった」「工夫が知れた」という意見が多く、講義から体験を行なう事で理解が深まった様子が見られた。今後も体験する事で福祉に興味を持ってもらえるよう、取り組んでいく。
- ・学校などで車いす体験などを行う「福祉の出前入門講座」も実施しており、夏休み福祉体験とあわせて福祉の理解促進につなげることができるように取り組む。

2) せたがやシニアボランティア研修

事業概要	高齢者の社会参加、地域貢献を推進し、自らの健康づくり、介護予防に役立ててもらおうとともに、要介護・要支援者に対する、区民の主体的な地域支え合い活動を育成・支援することを目的に、せたがやシニアボランティア活動に参加するための研修を実施。研修内容は施設動画視聴、事業概要の説明、実際にボランティアをされている方のインタビュー動画視聴。
実施回数	年7回（集合5・7・9・11・2月 動画配信8・12月）
会場	世田谷区福祉人材育成・研修センター 他、区内施設
参加者	集合5回 143名 動画配信2回 48名

<参加者の声>

○集合研修

- ・特養ボランティアと聞いただけで腰が引ける思いだったが、説明を伺い、気持ちが前向きになった。認知症の説明が、とても参考になった。
- ・支援される側に立って行動することが大切であることを知れた。「思いやり」はとても大切だと思う。ゲームなどのボランティアの興味がある。
- ・特別な特技がなくてもボランティアはできる、「こういう生き方もあるのだな」と新たな発見があった。
- ・ボランティア経験者お話がとても良かった。自分のボランティア活動へ、背中を押してもらったようだった。
- ・あんしんすこやかセンターの役割を理解しているようで、知らないこともあり驚いた。知らない方も多いので、この情報を広く知らせたいと思った。
- ・この研修を知ることができて良かった。いきなりボランティアというわけではなく、こういった担当の部署があることで安心できた。
- ・少ない時間からでも、また、些細なことでもお手伝いすることがポイントとなり、介護サービスに反映することが分かった。
- ・ボランティア活動をしている方の意欲的なインタビューを見て、とても参考になり、私自身も元気に頑張ろうと思った。

○オンライン研修

- ・せたがやシニアボランティア活動について、具体的にどのようなことをするのか、自分には何なのかを検討するにあたって、とてもわかりやすく参考になる。
- ・世田谷区はとてもボランティア活動がやりやすいと思ったし、自分でもお手伝いできることがたくさんあること。
- ・ボランティア未経験者向けのガイダンスとして、コンパクトにまとまっており、分かり易い。
- ・最近はYoutubeなど、オンライン学習で学ぶ機会も増えたが、本講座はよくわかった。
- ・ボランティア活動が未経験のため、研修ビデオを見て少し不安が和らぎ、感謝する。
- ・分かりにくいところは、その部分に戻って再度見ることができたので、大変良い。
- ・実際に活動されている方のお話がとても身近に感じられ、具体的な例を挙げていただけたので、非常に参考になり分かりやすかった。

<今後に向けて>

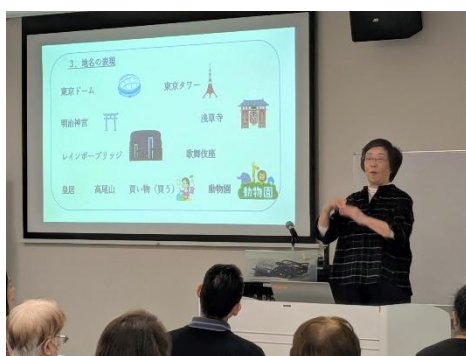
- ・後半にかけて受講者が減少しているため、研修センターのHP・SNSをさらに活用する。
- ・動画視聴研修を受講しやすくするよう、申込や視聴方法を工夫する。
- ・動画「シニアボランティアを始めるにあたって」さらに分かり易いものにしていく。

3) 手話カフェ

事業概要	手話を通して、福祉の理解促進を図る。誰でも気軽に参加できるよう、基本的な内容を中心に実施。保健医療福祉総合プラザの運営管理者協力事業
実施回数	月1回（12回開催）
定員	各回20名
参加者	延べ361名
周知方法	区の掲示板（プラザ近隣の掲示板）、区役所等

<実施方法>

- ・聴覚障害者協会の方を講師に迎え、東京都発行の「話そう 手のことば おもてなしの手話BOOK」をテキストに、手話の初めの一步を気軽に交流を深め、楽しみながら学ぶ。手話を通し福祉の理解促進を図る。
- ・さらに学びたい方には区の手話通訳講習会を紹介する。
- ・身近な話題の手話表現や、イベントなど（今年度はデフリンピック）の様子などを交えて手話を学んだ。



<参加者の声>

- ・今回、初めて手話に挑戦しました。うまくできませんでしたが、もっと知りたいと思っています。
- ・なかなか覚えられませんが、くり返します。
- ・いつもながら、楽しい学びの場でした。ありがとうございました。
- ・とても楽しかったです。また参加してもっと学びたいです。
- ・とても面白く、すっと入ってきやすいです。次回も楽しみにしております。
- ・いろいろなイベントの情報を教えていただけるのがとても良い。
- ・となりの人と仲良くなれるのもいいポイントですね。
- ・回数を重ねて指文字ができるようになってきて楽しいです。
デフリンピックは、是非見に行つて応援しようと思います。
- ・手話で歌 楽しかったです。本日もありがとうございました。
- ・楽しく学べ、手話をもっと知りたいという気持ちが子どものようにふくらみます。
- ・とても難しいと思っておりますが、なんとか一緒にやれたらと思います。

<今後に向けて>

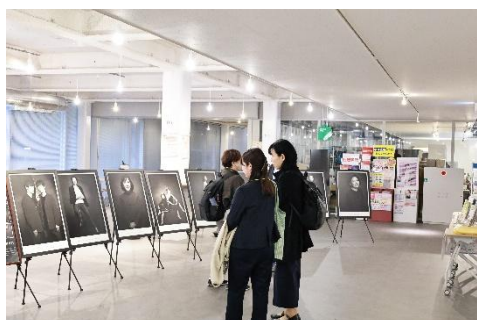
- ・当事者である聴覚障害者協会の講師が「福祉のこころ」について、丁寧に教えてくれるので、福祉の理解が進んでいる。引き続き、手話を通して福祉の理解促進に取り組む。

- ・より多くの方が手話に興味を持ち、ステップアップしたいと思うきっかけになるようにしていきたい。
- ・定員 20 名に対し参加希望者が多く、実際の参加者が 30 名を超えているため、令和 8 年度から定員を 20 名から 30 名に変更。
- ・令和 8 年度から参加費を 300 円に改定する。
- ・既に手話を学ばれている方の参加も多く、初めて手話を学びたい方が優先的に参加できるように考えていきたい。

4) 「KAiGO PRiDE @SETAGAYA」写真展

事業概要	日々介護の仕事に取り組んでいる介護職への敬意と感謝を表し、介護職員の介護の仕事への熱い思いや魅力をポートレートとメッセージをとおして発信する写真展
日程 (会場)	<p>5月17日～22日 都庁展示（都庁第1庁舎）</p> <p>6月28日 福祉のしごと入門講座、相談・面接会（北沢タウンホール） 約90人</p> <p>8月30日 福祉のしごと入門講座、相談・面接会（成城ホール） 約90人</p> <p>10月1日 福祉のしごとイベント（保健医療福祉総合プラザ） 約70人</p> <p>10月4日 在宅療養講演会・シンポジウム（烏山区民会館） 約90人</p> <p>10月18日 うめとぴあフェスタ（保健医療福祉総合プラザ） 約5900人</p> <p>11月8日 せたがや福祉区民学会（東京都市大学） 約460人</p> <p>1月28日 福祉のしごと入門講座、相談・面接会（玉川せせらぎホール） 約50人</p> <p>1月31日 福祉用具展示会（保健医療福祉総合プラザ） 約170人</p> <p>2月6・7日 「ケアニン～ここに咲く花～」上映会（保健医療福祉総合プラザ） 約360人</p> <p>3月6日 外国人職員交流会展示（保健医療福祉総合プラザ） 約37人</p>
周知方法	ちらし・ホームページなど

<開催風景>



<来場者の声>

- ・モダンな感じで素敵です。
- ・イメージが変わった。
- ・1人ひとりとっても魅力的でした。介護の従事者の方の写真、自分のイメージでは外で明るく撮影されるかと思ってたらスタジオで。とってもかっこよく、素敵でした。まさに「PRiDE」ですね。
- ・写真に写る素敵な人たちの笑顔をみれました。
- ・とてもかっこよかった。
- ・皆さん優しい笑顔が印象に残りました。
- ・びっくりするくらいかっこよい写真だと思いました。私もとってもらいたいくらいです。
- ・介護の仕事は大変という情報ばかり耳に入ってくるけど、「やりがいがあります」と聞いたことで、ちょっとやってみようかなと考えさせられた。
- ・みなさん笑顔がすばらしい。その笑顔でご利用者の方は安心・安定・信頼ができるのだと実感した。
- ・メッセージにその人の思いが強調されていると感じた。
- ・個人的エピソードがおもしろかった。
- ・皆さん素敵だった。イメージアップにとっても良い取り組みだと思いました。
- ・斬新な感じで良かったです。
- ・モデルさんの方の表情がとても良かった。
- ・生き活きとした表情に感動しました。
- ・生の従事者の声を合わせて理解が進んだ。
- ・良いPRになっていると思います。
- ・介護の仕事のイメージと違い、スタイリッシュなイメージが持てた。
- ・笑顔が Good !
- ・介護のイメージを変えたいというコンセプトを感じました。ぱっと見では介護職の人たちというくくりの物だとはわからない、かっこいい写真たちでした。

<今後に向けて>

- ・令和8年度はポートレートの第2弾の撮影会を予定しており、新たに10枚のポートレートを追加する計画となっている。新規追加するポートレートを含め、引き続き区内各所で開催される「福祉の仕事 相談面接会」「せたがや福祉区民学会」等で、写真展を開催し、「福祉のしごとの魅力」を発信していく。また、総合プラザ内で開催される各種イベントの機会も活用して、より精力的にポートレートの展示の場を増やしていく。

6) ケアニン～こころに咲く花～ 上映会

事業概要	新人介護士の奮闘を描いた「ケアニン～あなたでよかった～」の続編。小規模施設から大規模な特別養護老人ホームに転職した主人公が、効率化やリスク管理を優先する現場に戸惑いながらも、入所者に真摯に向き合い、奔走する感動作 ※保健医療福祉総合プラザの運営管理者協力事業
実施	令和8年2月6日、7日 1日3回上映
会場	世田谷区立保健医療福祉総合プラザ1階 研修室C
参加者	362名
周知方法	ちらし・ホームページなど
開催	うめとぴあ 上映会実行委員会（代表 研修センター）

<周知チラシ・開催風景>



<来場者の声>

- 必ず心が喜ぶ選択をすれば、皆が幸せになれると確信できる映画でした、真の勇気を発揮できる人になります。
- 良かったです。本当にこのような介護が出来る勇気がほしいです。
- 自分が認知症になった時の事を心配していましたが、良い人達にめぐり会えれば楽しく過ごせそうです。
- 母95歳、私も70代と介護が近いので、考えさせられました。
- 介護現場がきれいすぎるように感じたが、このようなスタッフ達なら、とても良いと思う。
- 色々鑑賞しましたが、本日のドラマが一番心に響き感銘しました。自分も年老いていずれお世話になる身ですが、この映画のように対応下されれば嬉しいです。
- 介護士として沢山学ぶ事がありました。

- 完成させちゃだめなんだよ、余計なことをやるんだよ、福祉は変わるぞ。メモりました！
- とても考えさせられました。一人一人の笑顔を見るために、ケアニンさん達のチームワーク、効率ではない愛、思いやり、寄り添う心、真心の大切さ。
- みんなそれぞれ、良かれと思ってやっていることが必ずしも一致しない。それを知ったうえで、一緒にやっていくことの大事さを知りました。
- 身につまされる話でした。
- 介護施設を利用していたので、施設側の言い分もよく理解できるが、個々人に対応できる点もあることに光をみた。
- きれいごとと思うところもありましたが、全体的には良かったと思います。
- この仕事をしようと思った時のことを思い出しました。改めて良い仕事だと思えます。
- とても感銘を受けました。認知症について少し明るくとらえることが出来るように思います。又、介護の仕事をなさっている方の愛情がとてもうれしいです。本当に感謝致します。
- 自分の母を思いながら観ました。(認知症で施設入所中) 自分で何かできるか考えさせられました。
- いい映画でした。ケアニン(圭さん)のせりふの声のトーンが少し不自然なのが気になった。
- 介護業界、厳しいことばかりですが、少し気持ちが明るくなる映画でした。一人ひとりの思いが届く業界であって欲しい。

【主催者へのメッセージ】

- 素晴らしい内容の上映をありがとうございました。
- ケアニンという言葉は初めて知りました。母を介護しているので身につまされた。
- 感動しました。今の自分を見つめ直す良い機会になりました。
- ありがとうございました。やさしい雰囲気でもて迎えていただいた気がします。
- またこのような映画の企画をよろしくお願いします。お疲れさまでした。
- 今後もこのような福祉に関する上映をお願いします。
- 主催者様がこの世の花、街の光だと思えます。良くなりますよね！この世の中は！！もっと！！
- これからも素晴らしい作品を作りつづけてください。
- 何度でも、もしできればやってほしい！
- こういう機会が増えるといい。
- ありがとうございました。両親に逢いたくなりました。
- 映画で認知症への理解を広める形もわかり易くて良いと思った。
- 若い頃の映画でみていた頃のスタッフさんもとても良かったです。
- 夫が要介護4で歩けるようになったので連れてきました。ぜひ大勢の人に見て欲しい。
- 介護の仕事の重要さをよく理解できました。仕事の大変さをもっと現実的に知りたいと思っている。
- ぜひ多くの人に見ていただきたいので、上映会続けて欲しいと思います。

(2) 福祉人材の確保・育成・定着支援

1) 基礎的な資格取得・学びの場

介護や介護の仕事が未経験で、新たに介護の仕事を目指す方が不安なく仕事ができるように、介護に関する基本的な知識や技術を学ぶための研修、資格取得のための研修として次の研修を実施している。

研修名		内 容	
① 介護に関する入門的研修	対 象	介護の仕事に関心のある区民	
	日 程	9/3～10/1、5日間、21時間	
	方 法	講義・演習（集合）	
	修了者／受講者	24名／26名 (20歳～78歳 平均年齢 57.53歳)	
② 介護職員初任者研修	対 象	介護の仕事に従事する、または希望する方。家族等のために介護の知識や技術を学びたい方	
	日 程	第1回 中止 第2回 9月5日～10月30日 22日間、130時間	
	方 法	講義・演習とも研修センター（介護実習室）での集合研修	
	修了者	第2回 9名（23歳～61歳 平均年齢 44.9歳）	
③ 同行援護従業者養成研修	一般課程	対 象	区内で同行援護サービスに従事する意思のある方
		日 程	9月1、2、4、8、9日 5日間、29時間
		方 法	講義・演習：研修センターでの集合研修及び公共交通機関・公共施設を使った屋外演習
		修了者／受講者	17名／18名（25歳～75歳 平均年齢 56.0歳）
	応用課程	対 象	同行援護従業者養成研修(一般課程)を修了した方
		日 程	10月21日 1日間、6時間
		方 法	講義：研修センターでの集合研修
		修了者／受講者	7名/7名（50歳～76歳 平均年齢 58.9歳）

① 介護に関する入門的研修

- ・対面で実施し、車いすや介護ベッドなど、福祉用具を使用し、実際に体験を行った。

<参加者の声>

- ・とても役に立つ研修だった。今後すぐに動けるようにまとめたい。ステップアップできる研修受講も考えたいと思う。
- ・理解が深まったので、今後の両親の介護に役立てたいと思います。ありがとうございました。
- ・介護現場で働く方々の体験談や、介護職に対する熱い思いにふれて、とても感銘を受けました。

③ 介護職員初任者研修

- ・第1回は、申込者人数4名で最少催行人数に到達せず、中止となった。
- ・第2回は、受講者9名、修了者9名。うち5名は、受講前より福祉の仕事に従事しており、資格をとってステップアップした。残り4名中、1名が修了後、福祉の仕事に従事した。9名中2名（既に福祉の仕事に従事）はミャンマー人で、日本語の壁を乗り越えて修了に至った。

<参加者の声>

- ・どの科目もわかりやすかったです。何度も練習させてもらえて、各ベッドに常に先生がついてくれたので、わからないままになってしまうことはありませんでした。受講生が少人数でよかったです。2ヵ月間、とても楽しかったです。
- ・日本語あまりわからないけど、かんじの上にふりがなでかいてちゃんとせつめいしてくれました。わかりやすいようになんかおもしえてくれました。ありがとうございます。
- ・介護保険に関する科目が分かりにくかったです。初任者研修のためには、もっと要点だけにしぼって分かりやすくすべきだと思います。
- ・研修中、プライベートでいろいろあり、疲れてもうやめようと思ったが、個人的な問題でもしっかり話を聞いていただき、支えてもらえたおかげで、最後まで続けられました。
- ・講師の方の思いや体験などが伝わってくる授業は引き込まれました。
- ・ボディメカニクスを意識することや、介護者の身体の負担にならないような実技のやり方を常に適切に教えていただき、大変勉強になりました。
- ・良き講師の方々、事務局の方々、クラスメートに出会え、学べたことに感謝申し上げます。
- ・現役で働いている講師の体験談等をまじえて講義していただき、分かりやすく良かったです。
- ・お聞きしたことに対して丁寧に説明していただき、安心できました。

③ 同行援護従業者養成研修

- ・令和7年度より新カリキュラムとなり、一般課程は、5日間で29時間（規定時間28時間+独自科目1時間）の研修を実施。応用課程課程は、1日間で6時間の研修を実施した。
- ・一般課程は、9月下旬に実施。内容は、旧カリキュラムの一般課程及び応用課程が一つになり、より専門的な過程となった。
- ・応用課程は、10月に実施。内容は、サービス提供責任者に必須の知識を学ぶ内容となった。
- ・一般課程は、17名が修了し、応用課程は7名が修了した。

<参加者の声>

（一般課程）

- ・演習と座学の基礎固めがあったので良かった。また、利用者理解の時間で、当事者の方のお話を伺うことができ良かった。今回の研修で特に心に響いた。
- ・利用者側の立場も体験することで、どういうことが怖いのかを理解できた。重要なところは、その都度、ご指摘をいただけるのでありがたかった。
- ・当事者の方の不便な面と、ガイドヘルパーの役割が理解できた。ご利用者を安全に支援することは、声掛けが重要であり、常にご利用者中心で行動することを学んだ。

（応用課程）

- ・業務上のリスクマネジメントのうち、ガバナンスリスク（個人情報）で、駅での待ち合わせ等で名字を呼ばないようにすること、先にこちらから事業所名を相手につたえるなど、配慮が必要なことが分かった。

- ・サービス提供責任者になると、経験と実務上のスキルがとて問われること知れた。
- ・とて分かりやすく説明いただいた。サービス提供責任者の研修も年に1回必要だと感じた。

<今後に向けて>

- ・新カリキュラムに移行し、受講時間が伸びたこと、令和7年度は一般課程を9月に実施したため、暑い中で屋外演習をすることになった。気候も配慮に入れ一般課程は10月、応用課程は11月に実施する。
- ・引き続き、より多くの一般課程修了者が従業者として就業できるよう、また、大切なポイントをしっかりと伝え、実践につながるより質の高い内容となるよう、講師と相談しながら研修環境を整える。

2) 福祉サービスの担い手の発掘・就労支援

事業概要	福祉人材を総合的に確保・育成するため、ハローワークや東京都社会福祉協議会、産業振興公社等関係機関と連携し、①せたがや福祉のしごと入門講座、面接・相談会、②せたがや福祉のしごと区内介護施設等・障害者時施設見学会、③訪問看護の就労支援講座、④訪問看護の職場体験を実施している。
対象	①②これから福祉の仕事に就きたいと考えている方 福祉の仕事に関心のある方 ③④看護師・准看護師等の資格保有者、看護学生等
その他	雇用保険求職活動の実績対象

<実施方法と実績>

① せたがや福祉のしごと入門講座、面接・相談会

- ・各日2回実施し（10月1日はイベントとして開催し午後のみ）、年計7回実施。
- ・参加事業所1分間PR動画を研修センターホームページで開催前後約2週間公開した。開催ごとの動画再生数全事業所合計で150回を超えている。福祉のしごとや資格等に関する説明、介護職員等の体験談を語る座談会動画は、開催後2週間公開した。
- ・10月1日は、福祉人材育成・研修センターとハローワーク渋谷、世田谷区内特別養護老人ホーム施設長会、世田谷区産業振興公社が共催し、東京都福祉人材センターと協力し実施した。

	実施回数 (回)※	実施方法	参加企業 (所)	参加者数(イベント参加者数再掲) (人)	入門講座 参加数(人)	面接者数 (人)
令和7年度	7	会場	88	295 (67)	254	235
令和6年度	7	会場	93	268 (75)	201	265
令和5年度	6	会場	46	290 (63)	186	227
令和4年度	5	Web/会場	59	178 (27)	111	96
令和3年度	4	Web/会場	51	118 (13)	118	—
令和2年度	4	Web/会場	66	239 (119)	170	—
令和元年度	4	会場	42	294 (95)	125	180
平成30年度	5	会場	37	348 (176)	112	168

※実施回数のうち1回はイベント

()内はイベント参加者数再掲

※Web開催は面接会なし。

<参加者の声>

- ・入門講座では、「世田谷区の実情に沿った内容になっており、世田谷区内で従事したいと思っている自分にあっていた」。
- ・座談会動画では実際介護職に従事されている方の具体的なエピソードなどを聞いて、福祉の仕事のやりがいにふれる事ができました。
- ・面談では、直接施設の方に疑問に思っていることや、気になることをお伺いして、お話しして対話できる時間や空間があり、とてもありがたかったです。

② せたがや福祉のしごと区内介護施設等見学会

- ・現地集合、現地解散で午前・午後の2コース制で実施。各コース2～3施設を見学した。
- ・グループホームや小規模多機能型居宅介護など、小規模施設の見学にも対応するため、定員を8～10名設定した。
- ・参加者には見学先の入館ルールに合わせて、感染対策として、検温、手指消毒等を実施した。

	実施回数 (回)	実施方法	参加企業 (所)	参加者数 (人)	ハローワーク 登録者数(人)	就職者数 (人)
令和7年度	5	バス見学会	21	39	26	0
令和6年度	5	バス見学会	21	81	38	1
令和5年度	5	バス見学会	21	67	33	1
令和4年度	5	Web/会場	20	51	36	0
令和3年度	5	Web/会場	20	70	-	-
令和2年度	4	Web/会場	17	44	-	-
令和元年度	6※	バス見学会	26	66	51	17
平成30年度	4	バス見学会	20	39	31	13

<参加者の声>

- ・自分の家族や自分自身が入居した時のことまで思いが至った。働く側の視点だけでなく、色々な立場で、考えられた。バスで回って見られたことも良かった。
- ・施設によって、業態が違うことを知ることができた。無資格の方が仕事を始めるにあたっての流れや考え方を示してもらえ、助かった。
- ・実際に施設を見学し、雰囲気を知ることができた。施設の方のお話がどちらも分かりやすく、具体的なイメージが湧いた。

③ せたがや福祉のしごと区内障害児・者施設等見学会

- ・現地集合、現地または世田谷区立保健医療福祉プラザで解散。各コース2～3施設を見学した。
- ・参加者には見学先の入館ルールに合わせて、感染対策として、検温、手指消毒等を実施した。

	実施回数 (回)	実施方法	参加企業 (所)	参加者数 (人)	ハローワーク 登録者数(人)	就職者数 (人)
令和7年度	4	バス見学会	12	15	10	0

※令和6年度12月に試行開始。

<参加者の声>

- ・今まで就労支援事業所のことがよくわからなかったが、実際に見学ができてイメージが持てた。
- ・直接施設職員の話聞いたのは有意義でした。普段、目にする事が出来ない施設を直接見学する機会が得られたことがとても有意義でした。

- ・それぞれの施設の方の説明がわかりやすく良かった。障害分野に対して知識不足を感じた。
- ・実際見学することができ、丁寧に説明していただき、イメージすることが出来ました。『居場所』という機能が大切であると感じた。

④ 訪問看護の就労支援講座

訪問看護について、仕事の内容や魅力を伝えるとともに、地域医療に携わる医師による講演や現役の訪問看護師との交流を通して、就労を支援する。

	実施回数	参加者数
令和7年度	3	70
令和6年度	3	97
令和5年度	3	88
令和4年度	3	60
令和3年度	3	62
令和2年度	3	59
令和元年度	3	27
平成30年度	3	33

<参加者の声>

- ・訪問看護に興味があったので、現場の話を聞いてよかった。今後の参考にしたい。
- ・自分が実践している看護を振り返ることができました。
- ・実際の現場の話を伺い、より訪問看護に興味をもつことができました。
- ・実際のステーションの方の話が聞いたのがすごく良かったです。
- ・講座に参加するまでは、訪問看護がどんな仕事なのかあまりわからなかったが、講座を通して知ることができてよかった。
- ・現役の訪問看護師の方々の経験や思いについて聞くことができ、参考になりました。
- ・こういう機会がないとわからないことも多いので参加して良かったです。

⑤ 訪問看護職場体験

訪問看護ステーションの看護師と一緒に訪問看護の仕事を体験、現役の看護師に直接話を聞くことで、不安や疑問等を軽減し、就労を支援する。

	体験回数	延回数
令和7年度	0	0
令和6年度	1	2
令和5年度	0	0
令和4年度	1	2
令和3年度	コロナ禍のため未実施	
令和2年度	コロナ禍のため未実施	
令和元年度	8	10

<今後に向けて>

- ・面接会では、全体的に参加者を増やせるよう取り組む。

- ・相談・面接会では、福祉のしごとの魅力や現場の実際の周知を図るため、KAiGO PRiDE 写真展や福祉用具の展示・体験を実施する。
- ・1分間 PR 動画を求人票とともに相談・面接会前にホームページ上で公開し、参加者の参加意欲が高められるようにする。
- ・見学会では前年度よりも全体的に参加者が減少したことから、周知先拡大のため、職業訓練校へ説明に赴くなど、ハローワーク、都福祉人材センターの協力も得ながら、周知を徹底する。
- ・少人数でも内容の濃い見学会づくりのため、事前に施設の強みを確認して説明や質問に反映させ、見学时に有効な求人が用意されるよう、見学先と協力して実施する。
- ・訪問看護について関心をもってもらうため、次年度から研修名を変更、受講対象者を看護師・准看護師の有資格者、看護学生だけでなく、「訪問看護に関心をもち看護師を目指す方」まで広げる。講座内容については、入門的になりすぎず、実践的な内容も取り入れ、有資格者にも満足してもらえるものを検討していく。

3) 福祉人材の定着支援

福祉のしごと相談	<p>こころの相談（面談）、メール相談、電話や研修等を通じた相談を実施</p> <p>【相談件数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こころの相談（面談） 1件 ・メール相談 3件 ・電話、研修を通じた相談 16件（電話12件、メール4件）
研修室の貸出	<p>区内福祉サービス事業所等が実施する研修などのために貸出</p> <p>今年度団体登録 22団体 84回</p>
図書 の貸出	<p>区内福祉サービス事業所等に参考資料として、研修センター図書の閲覧・貸出を行う</p>
世田谷区介護サービスネットワーク事務局	<p>研修グループ、通所連絡会、訪問介護連絡会、福祉用具連絡会、地域部会の活動の支援及び入退会に伴う手続きや名簿管理、会費徴収事務等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年4月から令和8年3月世田谷地域部会主催の「介護事業所管理者向け連続講座」、災害対策小委員会、訪問介護連絡会、福祉用具連絡会の研修・イベント、各部会定例会の会場予約などを実施。
腰痛予防対策	<p>腰痛予防「福祉用具活用のススメ」リーフレット作成</p>

<今後の取組み>

- ・福祉のしごとに関心をもつ方が、仕事内容・働き方、資格取得等について相談できる「福祉のしごと はじめて相談」と、仕事における悩みや介護技術、職場の人間関係等について相談できる「福祉のしごと 悩み相談」の周知を継続する。
- ・ハローワーク等関係機関の紹介を相談チラシに掲載し、相談の一助とする。
- ・継続して介護サービスネットワークの運営が続けられるよう、委員の負担軽減を図り必要な支援を継続していく。

福祉のしごと相談



図書貸出



(3) 世田谷区介護人材対策推進協議会

目的	区内介護サービス事業者と関係機関が一体となり、区における介護人材の確保及び育成・定着支援について、中長期的な視点も含めた対策を検討し介護人材不足解消を図る。
進め方	全体会：年2回 部会：「入所系」「在宅系」各2回 現状把握し課題を確認して、課題解決に向け 新たな取組みの検討を行い、実施可能なものから実行する。介護人材対策の好事例を収集し発信する。
検討内容	(1) 介護現場の革新・生産性の向上に関すること。 (2) 多様な人材の参入・活躍の促進に関すること。 (3) 介護の仕事の魅力発信・職業イメージの改善に関すること。 (4) その他介護人材の確保・育成・定着支援に関すること。

世田谷区介護人材対策推進協議会報告書参照

研修センターホームページ > 調査・研究報告 > 令和7年度調査報告

> 令和7年度世田谷区介護人材対策推進協議会報告書

(4) サービスの質の向上

「ひきこもり(8050問題)の理解・支援力向上」「クレーム対応」など、研修の実施方法については、従来の集合研修に加え動画研修を導入し、目的に応じた柔軟な研修形態を採用した。研修内容に応じ Web による研修や、感染対策に十分留意しながら集合(対面式)も段階的に拡充した。また、集合と動画視聴などを併用した複合的な研修方式を取り入れることで、多様な受講ニーズに対応し、多くの事業所に学びの機会を提供した。これらの取組みにより研修機会の確保と参加促進を図るとともに、更なる福祉事業所のサービスの質の向上に取り組んだ。

年間研修数※	127本	集合研修 57本 Web研修 70本 (内訳：動画視聴 51本 ライブ 10本 ライブ+動画視聴 2本 集合+動画 6本 集合+ライブ 1本 集合+ライブ+動画視聴 0本)	
年間受講者数※	7,492人 / 平均 59.0人		
動画視聴 受講者数※	4,731人 / 平均 92.7人	集合+動画※	575人 / 平均 95.8人
ライブ 受講者数※	297人 / 平均 29.7人	集合+ライブ+動画※	0人 / 平均 0人
ライブ+動画視聴 受講者数※	48人 / 平均 24.0人	集合研修 受講者数※	1,809人 / 平均 31.7人

※令和8年3月31日現在 注：令和6年度より動画視聴回数を動画受講者数とする。

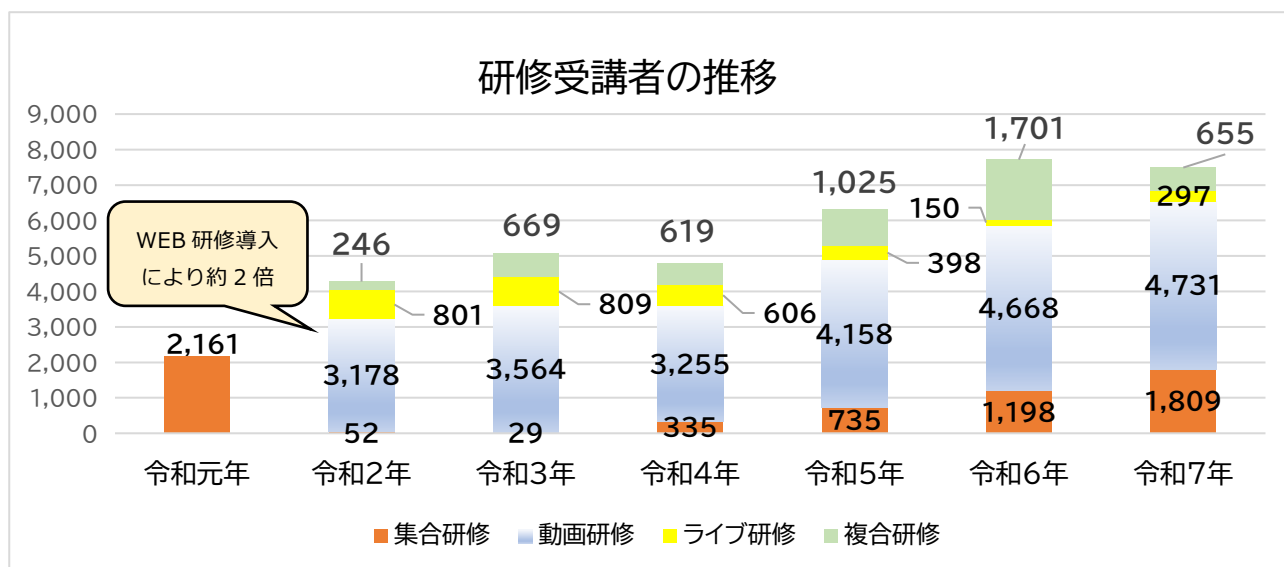
<実施方法>

- ・座学は引き続き Web 研修を中心に実施し、誰もが安全に受講しやすい研修機会を提供した。
- ・研修センター研修室の機能を活かし、集合(対面)方式での研修を増やして、グループワーク等のやり取りを行うことでより有益な研修実施に繋がった。
- ・より多くの受講者の受講スタイルに合わせられるよう、集合研修(ライブ研修)とその研修内容の録画視聴の双方を受講者が選択できる、複合的な研修方式を増やした。
- ・視聴期間が長く、ホームページ上で自由に視聴可能な公開講座も引き続き実施し、多くの方に受講の機会を提供した。

- ・「介護のワンポイントレッスン」を動画視聴による公開講座で実施し、日常生活にも役立つ介護の基本を短時間で受講できるようにした。

<受講者の推移>

- ・受講者は令和2年度のWeb研修の導入により、2倍に増加し推移している。集合研修を再開し、実技演習・グループワーク中心に集合研修を増加している。令和6年度集合研修は前年度より16本増加。令和7年度集合研修を前年度より8本増加。複合研修の割合が約56%減。



	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
集合研修	2,161	52	29	335	735	1,198	1,809
動画研修		3,178	3,564	3,255	4,158	4,668	4,731
ライブ研修		801	809	606	398	150	297
複合研修		246	669	619	1,025	1,701	655
計 (人)	2,161	4,277	5,071	4,815	6,316	7,717	7,492

注：令和5年度より動画研修申込者数を動画受講者数とする。

<受講者の属性>

- ・高齢分野での事業種別では、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、訪問介護の順で多く、職種別では、介護支援専門員、介護職、管理者の順が多かった。
- ・障害分野での事業種別では、生活介護、居宅介護・重度訪問介護、就労継続支援(A・B型)の順で多く、職種別では、生活支援員、介護支援員、管理者の順が多かった。

高齢分野 (参加者の多い順)

	事業種別	人数	全体の割合(%)
1	居宅介護支援事業所	1,474	45.5
2	地域包括支援センター	739	22.8
3	訪問介護	479	14.7
4	通所介護	91	2.8

	職種別	人数	全体の割合(%)
1	介護支援専門員	1,493	46.1
2	介護職	439	13.5
3	管理者	333	10.2
4	看護職等	255	7.8

障害分野（参加者の多い順）

	事業種別	人数	全体の割合(%)
1	生活介護	153	24.8
2	居宅介護・重度訪問介護	85	13.8
3	就労継続支援(A・B型)	72	11.7
4	相談支援事業	53	8.6

	職種別	人数	全体の割合(%)
1	生活支援員	160	26.0
2	介護支援員	132	21.4
3	管理者	83	13.5
4	看護師・保健師	29	4.7

<申込者の多かった研修>

	研修名	申込者	研修形態	アンケート回収数	視聴回数	平均視聴回数※
1	クレーム対応研修 コミュニケーション困難なケース対応	367	集合・動画 研修	251	413	1.6
2	障害者施設職員支援力向上研修 虐待防止と意思決定支援	244	動画研修	166	1,343	8.0
3	第1回高齢者虐待対応研修 支援者側への支援について	209	集合・動画 研修	145	318	2.2
4	高次脳機能障害支援力向上研修 基礎的知識と実践的アプローチ	208	動画研修	117	340	2.9
5	人権の理解促進研修 ハラスメント被害防止と対応	191	動画研修	228	444	1.9

※アンケート回答数を視聴者数として算出

<今後の取組み>

- ・研修センター、受講者、研修講師ともに Web 研修の習熟を図り、ネット環境を整えていけるよう働きかけていく。
- ・講義形式の研修は引き続き Web 研修を中心とし、グループワークや実技研修などは、感染対策に留意しながら徐々に対面形式の集合研修を更に増やしていく。
- ・項目ごとに分けた短時間でも視聴ができるような動画研修の検討。
- ・動画視聴等の Web 研修と集合研修を併用し、効率的・効果的な研修を進めていく。
- ・より多くの受講者が効果的に学べるよう、Web 研修の受講方法や Web 環境が整わない方には、研修センターでの受講等の周知を図る。
- ・誰でも視聴できる、視聴期間の長い公開講座の拡充を図る。

(5) 福祉の仕事の魅力向上・発信

1) 世田谷区の福祉人材広報誌「福祉のしごと ふくしごと 第6号」発行

目的	これから仕事をしようとしている方などにむけ、福祉の仕事は人間の尊厳にかかわる、知識・技術に基づいた専門性のある魅力的な仕事であることを伝える。
対象	これから仕事をしようとしている方、福祉の仕事を考えている方 (若者、子育てを終えた方、定年退職した方 など)
内容	タイトル「誰一人取り残さない社会の実現に向けて」 1. 事業所代表による座談会 人に向き合い 地域を支える ～私が福祉のしごとを続ける理由 2. データでみる世田谷 3. 有識者インタビュー：長谷川 幹氏（世田谷公園前クリニック名誉院長） 4. 若者の声：せたがや福祉区民学会学生理事・第17回大会学生実行委員 5. 福祉のしごとの魅力：渡邊 美佐緒氏（（社）ビーハッピーみのりの家）
配布先	ハローワーク、社会福祉協議会、ボランティアセンター、らぷらす、お仕事カフェ、青少年センター、若者サポートステーション、シルバー人材センター、図書館、研修センター、せたがや福祉区民学会など ※研修センターHPに掲載
作成部数	3,000部

<今後の取組み>

- ・今後も福祉の仕事の魅力向上発信の効果的なツールとして、年1回、発行する。
- ・イベント等にて配布し、広く周知を図る。



(6) せたがや福社区民学会

事業概要	身近な地域で日頃の実践を発表し、情報交換を通してお互いの交流を深めあい、区民福祉を向上することを目的に、世田谷区内の福祉系9大学、福祉施設や事業所で働き、学び、研究する者と区民、行政で構成されます。年1回大会を開催し、福祉活動や研究成果を発表し、学びあい、区民福祉の向上を目指します。 (平成21年12月設立) 団体会員：138団体、個人会員：39名
開催方法	第17回大会 東京都市大学 世田谷キャンパスで開催
実績	<ul style="list-style-type: none"> ●令和2年度 第12回大会の延視聴回数：4,248回 (WEB開催) <ul style="list-style-type: none"> ・全体会：308回 ・分科会：3,512回 ・基調講演：248回 ・大会総括：180回 ●令和3年度 第13回大会の延視聴回数：2,977回 (WEB開催) <ul style="list-style-type: none"> ・全体会：182回 ・分科会：2,452回 ・基調講演：118回 ・大会総括：108回 ・ワークショップ：117回 Zoom参加者数：51名 ●令和4年度 第14回大会 (駒澤大学) <ul style="list-style-type: none"> ・事例発表数：46事例 ・参加者数：344名 ・ワークショップ：26名 ●令和5年度 第15回大会 (東京農業大学) <ul style="list-style-type: none"> ・事例発表数：61事例 ・参加者数：493名 ・ワークショップ：44名 ●令和6年度 第16回大会 (日本女子体育大学) <ul style="list-style-type: none"> ・事例発表数：67事例 ・参加者数：436名 ・ワークショップ：32名 ●令和7年度 第17回大会 (東京都市大学) <ul style="list-style-type: none"> ・事例発表数：63事例 ・参加者数：460名 ・ワークショップ：44名 <p><17回の大会の実績 (平成25年度第5回大会大雪で中止) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例発表数：899事例 ・参加者数：6,292名 (令和2年度第12回大会・令和3年度第13回大会除)

<実施方法>

- ・学生理事・学生実行委員を中心に「ひとりひとりがあるままに生きられるまち世田谷」をテーマにワークショップを開催し、会員や学生相互の交流が図られた。
- ・KAIGO PRIDO@SETAGAYA 写真展では、写真を通し世田谷で働く介護職が自らの言葉で仕事の魅力を発信した。介護の魅力発信!! では、「せたがや福祉のしごと座談会 福祉のしごと」ご利用者・ご家族から事業所に寄せられた「ありがとうメッセージ」ケアマネジャーが語る「ベテランケアマネジャーが語る～その人らしさを支えるケアマネジャーの仕事の魅力～」5つのストーリーをおし伝える「自分らしく生きる、福祉・介護から」の動画を上映し、福祉・介護の魅力を発信した。
- ・障害者施設自主生産品展示販売では、区内5施設がお菓子や小物などの展示販売を行った。
- ・大会報告集は「発表者の発表を終えて」と「助言者の助言」などを1冊にまとめ会員に送付。
- ・会場開催での交流に加え Web 配信し、対面・オンライン開催、両方の良さを生かし実施した。

<参加者の声>

- ・「障害のある〇〇さん」ではなく、「〇〇さん」ととらえて接することは、忘れてはならないことではありますが、日々、支援をしている中で忘れてしまったり、世の中の方は「障害者」を前提として見ていることが多いので、福祉従事者が偏った見方をしない、障害を理由にマイナスな見方をしないなど基本にたちかえることができる講演だったと思います。
- ・学生が多いのにびっくりしました。学生の皆さんには、福祉の現場に来て欲しいですが、いろいろな分野から福祉に関わって欲しいです。また、学生さん、一人ひとりのコメントがしっかりと書いて、頼もしさを感じました。

- ・多様な立場の方々（学生、行政、事業者など）が、一同に集まり、年々多くの方々が、さまざまなテーマから福祉について発表する場となり、素晴らしいと感じています。多様性のある会になってきたと感じました。
- ・自信とプライドに満ちた介護職員の写真を見て、介護職員になりたいという人を増やせばいいと思った。
- ・介護の魅力発信！！動画では、福祉のしごとの魅力が伝わり福祉のしごとのイメージが変わった。
- ・本日の発表をとおして、福祉の現場で働く方々の熱意ややりがいを感じました。

<今後の取組み>

- ・多くの方に参加いただき、世田谷の福祉の向上につながる。活動を知ってもらうため更に周知に努め、会員と発表者、参加者を更に増やせるよう取組む。
- ・第18回大会は、令和8年12月昭和女子大学で開催を予定している。

せたがや福祉区民学会
学びあい 広げよう せたがや福祉の輪

第17回大会 「ひとりひとりが大切にされるまち 世田谷を目指して」

日時 令和7年11月8日(土) 12時～17時30分(開場:11時30分)

会場 東京都市大学 世田谷キャンパス (世田谷区玉堤1-28-1)

基調講演 渡邊 美佐緒 氏
(社会福祉法人ピーハッピー「みのりの家」施設長)
「当事者中心の福祉を追い続けて」
～障がいのある人の生活支援の現場50年から学んだこと～

参加 どなたでも参加いただけます。(申込不要)
参加費 500円
※お車での来場はご遠慮ください。公共交通機関をご利用ください。

内容 全体会 I 12時～13時
・開会挨拶・基調講演
実践研究発表 13時30分～16時25分
・口頭発表・ポスター発表
・ワークショップ 14時～15時[事前申込]
テーマ:「ひとりひとりがあつたままに 生きられるまち世田谷」
全体会 II 16時45分～17時30分
・大会総括
大会プラス
・「KAIGO PRIDE@SETAGAYA」写真展
・世田谷区内障害者施設による展示販売
・介護の魅力PR動画上映

アクセス 東京都市大学 世田谷キャンパス
【所在地】〒158-8557 世田谷区玉堤1-28-1
【電車】東急大井町線「風山駅」駅 徒歩12分
【バス】東急バス「東急東横線大倉入口」駅 徒歩3分

懇親会 18時00分～19時30分
・会場 東京都市大学 9号館1階 学生会 懇親会事務局
・参加費 2,000円(学生1,000円)
・申込 電話または二次元コード
締切 10月24日(金)

せたがや福祉区民学会事務局
世田谷区福祉人材育成・研修センター
TEL:03-6379-4280
FAX:03-6379-4281
URL: <https://www.setagaya-jinzai.jp/society>

第17回大会
せたがや福祉区民学会
開催要項・発表要旨集

学びあい広げよう 世田谷福祉の輪 ひとりひとりが大切にされるまち 世田谷を目指して

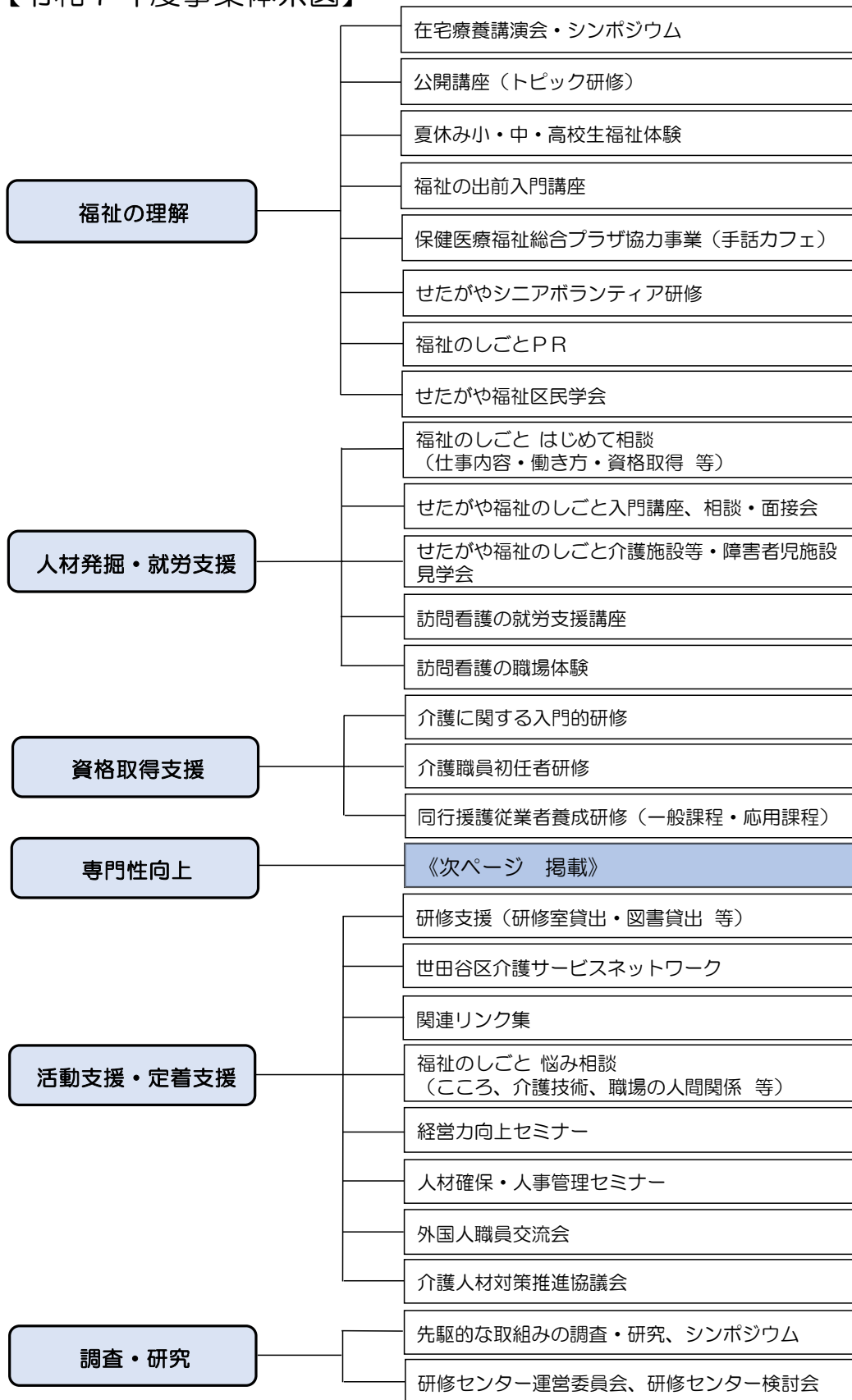
日時 令和6年11月9日(土)
12時～17時30分(開場11時30分)

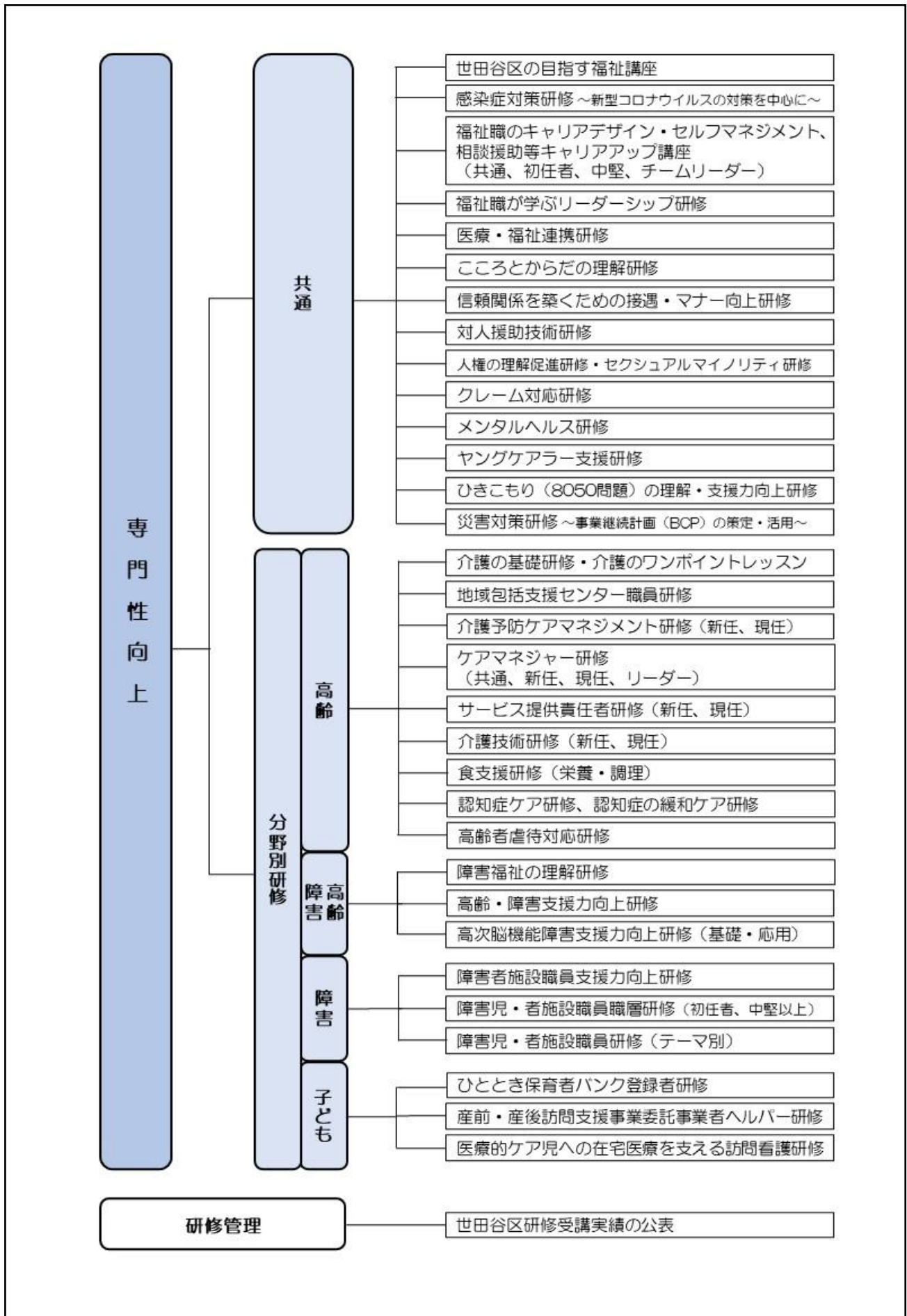
会場 東京都市大学 世田谷キャンパス

せたがや福祉区民学会 大会報告集 バックナンバー (第1回～第17回)

<https://www.setagaya-jinzai.jp/society/download>

【令和7年度事業体系図】





資料

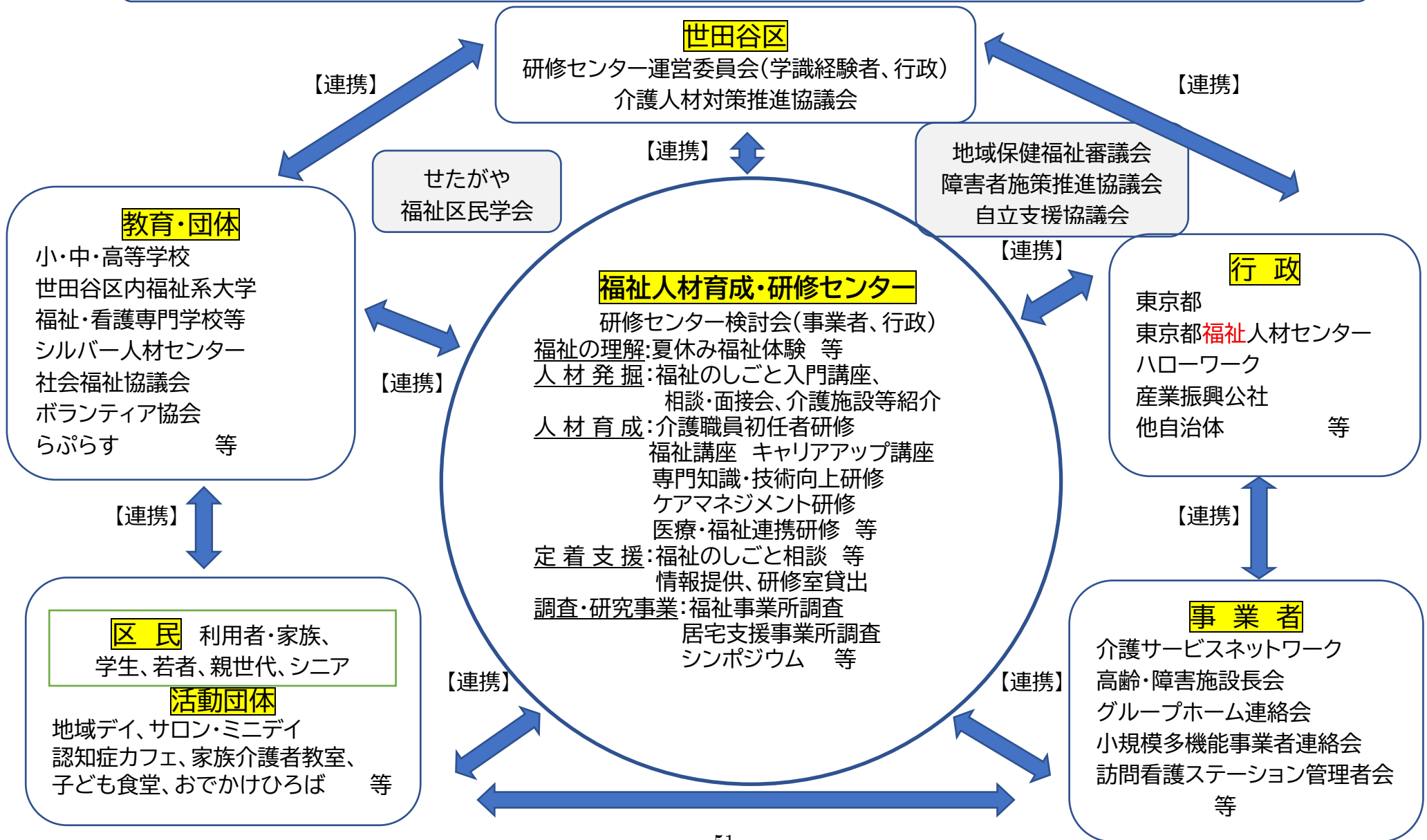
1 都内地域型研修機関

名称等	主な事業	特徴的な取組み
<p>東京都福祉人材センター 設立：1991年（平成3年） 運営：東京都社会福祉協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 仕事の紹介／研修／福祉の仕事に関する悩みの相談 • 小学生・中学生・高校生（教員・保護者）向けの研修 • 施設・事業者への支援／都内の福祉職場で働く人への支援 • 学校のキャリア支援担当へ支援／セミナー講師の派遣 • 就活通信の発行 	<ul style="list-style-type: none"> • 福祉学習・キャリア教育用DVD「変わりゆく福祉職場の“今”」 • 福祉職場の“今”を、様々な疑問から動画で紹介 • 関係団体との協力で、介護・保育分野以外の特定の種別に特化した就職相談面接会やセミナーの開催。 • 福祉の仕事就職フォーラムのオンライン開催。
<p>千代田区かがやきプラザ研修センター 設立：2016年（平成28年） 運営：千代田区社会福祉協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアの養成・家族介護者向け等研修 • 介護・福祉・医療職従事者向け研修 • 介護・福祉資格取得支援 • 介護人材の育成と就職・復職支援 • 医療と介護の連携 • 介護カウンセリング事業 	<ul style="list-style-type: none"> • 区独自の介護資格受講費助成
<p>品川区介護福祉専門学校 設立：1995年（平成7年） 運営：品川区社会福祉協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 介護福祉学科（介護福祉士養成コース、通学制） • 社会福祉士養成コース（通信制） • 実務者研修コース（通信制） • 地域の福祉サービス従事者に向けた研修、「品川福祉カレッジ」の運営 	<ul style="list-style-type: none"> • 区と社協のタイアップによる介護福祉士養成校開設 • 養成校卒業後も区との連携による研修を通して福祉人材のキャリアをバックアップ • 授業料を借り受けできる修学資金貸付制度（継続的な介護職従事で免除）、社会福祉法人との連携による福祉人材ファンドからの貸し付けあり

名称等	主な事業	特徴的な取組み
練馬福祉人材育成・研修センター 設立：2009年（平成21年） 運営：練馬区社会福祉事業団	<ul style="list-style-type: none"> 登録している練馬区内の介護サービス事業所で働く職員を対象に、無料の研修を年間100回以上提供 ケアマネジャー、介護福祉士の資格取得支援講座 地域に密着した情報交換の場の提供 ストレス対策やセルフケア講座 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所からのリクエストに応じた研修
大田区福祉人材育成・交流センター 機能設置：2022年（令和4年） 運営：大田区福祉管理課	<ul style="list-style-type: none"> 確保：福祉の仕事に関する相談会や見学会など 育成：福祉支援従事者に必要な福祉の基礎的研修。分野横断的に多機関・他職種連携を推進するための研修。eラーニング環境の基盤整備（システムの導入及び研修コンテンツの整備）など 定着：所属や分野など様々な垣根を越えた人材交流事業など 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉サービス事業所で働く方々が、所属や職種、支援分野など垣根を越えて交流し、共に学び、共に高め合うことを支援し、福祉従事者全体の支援の質の向上を目指す。
調布市福祉人材育成センター 設立：2015年（平成27年） 運営：調布市社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> 福祉人材の養成の研修・情報提供 就職相談会による人材の掘り起こし 専門性の向上の研修 市民参入に向けた普及啓発 事業所あるいは職員間のネットワーク形成 	<ul style="list-style-type: none"> 市内福祉事業所の求人情報をホームページで提供 「ちょうふ福祉実践フォーラム」開催で職員同士のネットワーク形成
町田市介護人材開発センター 設立：2012年（平成24年） 運営：一般社団法人 町田市介護サービスネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 介護サービスに従事しようとする人材の新たな発掘確保／潜在的有資格者への復職に向けた支援／市内福祉関係養成校への授業支援 高齢者福祉の仕事フェア／就職面接会 スキルアップの研修 地域包括ケアネットワーク構築 こころの相談・メンタルヘルス講演会 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者連絡会の事務局もしている。町プロ（ケアマネタイム）、アクティブ福祉in町田（表彰制度）、SNS、YouTube配信など 「カフェコーナー」での情報交換
武蔵野市地域包括ケア人材育成センター 設立：2018年（平成30年） 運営：公益財団法人 武蔵野市福祉公社	<ul style="list-style-type: none"> 人材養成事業：介護職員初任者研修／武蔵野市認定ヘルパー養成研修／武蔵野市認定ヘルパーフォローアップ研修 研修・相談事業：技術研修／認知症支援研修／潜在的有資格者復帰研修／喀痰吸引等研修 事業者・団体支援事業：管理者・経営者向け研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 初任者研修又は2級ヘルパー以上の資格を持っているが介護職に就いていない人向けに、復職のための無料相談や講義・実習を実施

【参 考】 世田谷区福祉人材育成・研修センターと関係機関等関連図

～福祉職員が誇りや意欲をもって働き
誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けるために～



令和7年度 世田谷区福祉人材育成育成・研修センター事業報告書
令和8年3月発行

発行 世田谷区福祉人材育成・研修センター
〒156-0043

東京都世田谷区松原 6-37-10 世田谷区立保健医療福祉総合プラザ 1階

電話：03-6379-4280 FAX：03-6379-4281

ホームページ：<https://www.setagaya-jinzai.jp>